

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年4月19日
【発行者名】	T & Dアセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 田 中 義 久
【本店の所在の場所】	東京都港区芝五丁目36番7号
【事務連絡者氏名】	富岡 秀夫
【電話番号】	03-6722-4813
【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】	米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）円ヘッジ・コース 米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）通貨プレミアム・コース 米国リート・プレミアムファンド（年2回決算型）マネープール・コース
【届出の対象とした募集内国投資信託受益証券の金額】	継続募集額 各ファンドにつき1兆円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【証券情報】

（１）【ファンドの名称】

米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）円ヘッジ・コース

米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）通貨プレミアム・コース

米国リート・プレミアムファンド（年2回決算型）マネープール・コース

※以上のファンドを総称して、または個別に「ファンド」、または「各ファンド」ということがあります。また、それぞれのファンドを「円ヘッジ・コース」「通貨プレミアム・コース」「マネープール・コース」ということがあります。

※「米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）円ヘッジ・コース」および「米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）通貨プレミアム・コース」を総称して、または個別に「米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）」または「毎月分配型」ということがあります。

なお、各ファンド共通の内容については、まとめて記載します。

（２）【内国投資信託受益証券の形態等】

追加型証券投資信託の振替内国投資信託受益権（以下「受益権」といいます。）です。

委託者（以下「委託会社」ということがあります。）の依頼により、信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付または信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後述「（１１）振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社であるT & Dアセットマネジメント株式会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

（３）【発行（売出）価額の総額】

各ファンドにつき1兆円を上限とします。

（４）【発行（売出）価格】

購入申込受付日の翌営業日の基準価額^{*1}とします。

マネープール・コースの購入申込は、スイッチング^{*2}による場合に限りま

※1「基準価額」とは、ファンドの資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。）をその時の発行済受益権総口数で除した1口当たりの純資産価額をいいます（ただし、1万口当たりに換算した価額で表示されます。）。

※2「スイッチング」とは、保有しているファンドの換金と同時に他のファンドを購入することをいいます。基準価額につきましては、販売会社（委託会社の指定する金融商品取引法第28条第1項に規定する第一種金融商品取引業を行う者および委託会社の指定する金融商品取引法第2条第11項に規定する登録金融機関をいいます。）または下記にお問い合わせください。

T & Dアセットマネジメント株式会社

電話番号 03-6722-4810（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

インターネットホームページ <https://www.tdasset.co.jp/>

（５）【申込手数料】

3.85%（税抜3.5%）を上限として、販売会社が個別に定める率を、発行価格に乗じて得た額とします。

申込手数料は、ファンドの商品説明、販売に係る事務費用等の対価です。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

なお、収益分配金を再投資する場合は無手数料とします。また、マネープール・コースへのスイッチングには、申込手数料はかかりません。

（６）【申込単位】

販売会社にお問い合わせください。

（７）【申込期間】

2023年4月20日から2023年10月19日まで

なお、申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。

（８）【申込取扱場所】

申込取扱場所（販売会社）につきましては、前述「（４）発行（売出）価格」の照会先にお問い合わせください。

（９）【払込期日】

ファンドの受益権の購入申込者は、販売会社が定める期日までに、購入代金（発行価格に申込口数を乗じて得た額に申込手数料（税込）を加算した金額をいいます。）をお申し込みの販売会社に支払うものとします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

振替受益権に係る各購入申込日の発行価額の総額は、追加信託が行われる日に、委託会社の指定するファンド口座に振り込まれます。

（１０）【払込取扱場所】

払込取扱場所は申込取扱場所（販売会社）と同様です。お問い合わせにつきましては、前述「（４）発行（売出）価格」の照会先にお問い合わせください。

（１１）【振替機関に関する事項】

ファンドの振替機関は株式会社証券保管振替機構です。

（１２）【その他】

①日本以外の地域における発行はありません。

②振替受益権について

ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、前述「（１１）振替機関に関する事項」に記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則にしたがって取り扱われるものとします。

ファンドの分配金、償還金、換金代金は、社振法および前述「（１１）振替機関に関する事項」に記載の振替機関の業務規程その他の規則にしたがって支払われます。

③スイッチング

各ファンド間で、スイッチングが可能です。なお、スイッチングの取扱の有無および手数料等につきましては、販売会社により異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。ただし、マネープール・コースへのスイッチングには、手数料はかかりません。

なお、販売会社の営業日であっても、下記の申込不可日に該当する日には、スイッチングの申込はできません。申込不可日につきましては、販売会社ないしは委託会社にお問い合わせください。

<申込不可日>

・ニューヨーク証券取引所の休業日

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

（1）【ファンドの目的及び基本的性格】

①ファンドの目的

「毎月分配型」

安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。

「マネープール・コース」

安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行います。

②ファンドの基本的性格

一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づくファンドの商品分類および属性区分は以下の通りです。ファンドが該当する商品分類および属性区分を網掛け表示しています。

「毎月分配型」

<商品分類表>

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産（収益の源泉）
単位型投信	国 内	株 式 債 券
<u>追加型投信</u>	<u>海 外</u>	<u>不動産投信（リート）</u>
	内 外	その他資産 資産複合

<属性区分表>

米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）円ヘッジ・コース

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回			
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性	年2回	グローバル	ファミリーファンド	あり (フルヘッジ)
不動産投信	年4回	日本		
その他資産（投資信託証 券（その他資産））	年6回 (隔月)	北米 欧州 アジア アセアニア 中南米 アフリカ 中近東（中東） エマージング	ファンド・オブ・ ファンズ	なし
資産複合	年12回 (毎月)			
	日々			
	その他			

米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）通貨プレミアム・コース

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回			
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性	年2回	グローバル (日本を除く)	ファミリーファンド	あり
不動産投信	年4回	日本		
その他資産（投資信託証 券（その他資産））	年6回 (隔月)	北米 欧州 アジア アセアニア 中南米 アフリカ 中近東（中東） エマージング	ファンド・オブ・ ファンズ	なし
資産複合	年12回 (毎月)			
	日々			
	その他			

「マネープール・コース」

<商品分類表>

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産（収益の源泉）
単位型投信	国内	株式 債券
	海外	不動産投信 その他資産
追加型投信	内外	資産複合

＜属性区分表＞

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態
株式	年1回		
一般			
大型株	年2回	グローバル	ファミリーファンド
中小型株		日本	
債券	年4回	北米	
一般		欧州	
公債	年6回（隔月）	アジア	
社債		オセアニア	
その他債券	年12回（毎月）	中南米	
クレジット属性		アフリカ	
不動産投信	日々	中近東（中東）	ファンド・オブ・
その他資産		エマージング	ファンズ
（投資信託証券（債券））	その他		
資産複合			

＜商品分類の定義＞

追加型投信

一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。

国内

目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

海外

目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

債券

目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

不動産投信（リート）

目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものとする。

＜属性区分の定義＞

その他資産（投資信託証券（その他資産））

目論見書または信託約款において、投資信託証券を通じて実質的にその他資産（株式・債券等以外）に投資を行うものをいいます。

その他資産（投資信託証券（債券））

目論見書または信託約款において、投資信託証券を通じて実質的に債券に投資を行う旨の記載があるものをいいます。

年2回

目論見書または信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいいます。

年12回（毎月）

目論見書または信託約款において、年12回（毎月）決算する旨の記載があるものをいいます。

日本

目論見書または信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

北米

目論見書または信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

ファミリーファンド

目論見書または信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。）を投資対象として投資するものをいいます。

ファンド・オブ・ファンズ

「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。

為替ヘッジあり

目論見書または信託約款において、為替のフルヘッジまたは一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいいます。

為替ヘッジなし

目論見書または信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。

※属性区分における「為替ヘッジ」は、対円での為替変動リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

※商品分類および属性区分の定義については、一般社団法人投資信託協会のホームページ（www.toushin.or.jp）をご参照ください。

③ファンドの特色

1. 各ファンド(マネープール・コースを除く)では、米国リートとオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を実質的に構築することで、相対的に高い配当利回りの獲得と、中長期的な信託財産の成長、およびオプション料(プレミアム)収入の獲得を目指します。

2. 「円ヘッジ・コース」と「通貨プレミアム・コース」および「マネープール・コース」の3つのコースがあります。

◆ 円ヘッジ・コース

為替変動リスクを低減するために、実質組入外貨建資産の為替ヘッジを行います。

◆ 通貨プレミアム・コース

米ドル(対円)の為替変動とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築することで、円から米ドルへの投資成果に加え、オプション料(プレミアム)収入の獲得を目指します。

◆ マネープール・コース

わが国の公社債および短期金融商品を実質的な主要投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行います。

資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

ファンドの仕組み

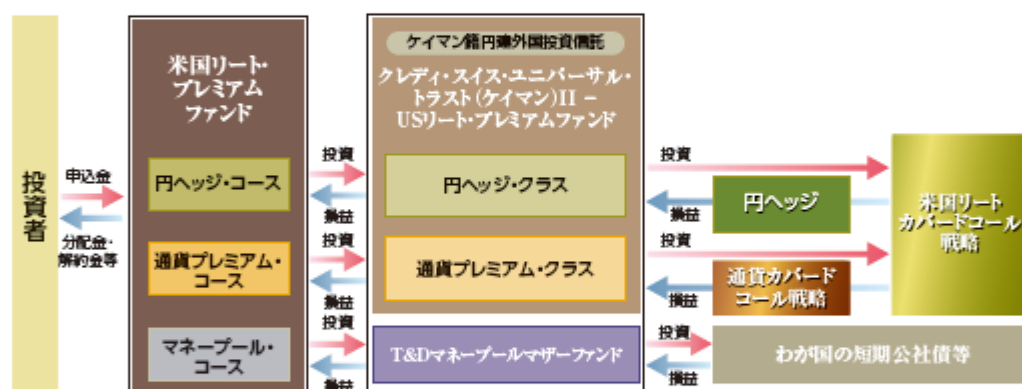
■ ファンド(マネープール・コースを除く)は、以下の投資信託証券に投資を行うファンド・オブ・ファンズです。

- 外国投資信託証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。
- 各投資信託証券の組入比率には制限を設けません。
- ファンド(マネープール・コースを除く)が投資対象とする外国投資信託では、直接米国リートへの投資やオプション取引を行わず、クレディ・スイス・インターナショナル*を相手方とする担保付スワップ取引を活用して、各カバードコール戦略の損益に連動する投資成果の享受を目指します。

* 為替ヘッジについても担保付スワップ取引を通じて、実質的な成果の享受を目指します。

* クレディ・スイス・インターナショナルは、チューリッヒに本拠をおく世界有数の金融グループであるクレディ・スイス・グループの一員で、イギリスおよびウェールズの会社法に基づき1990年に設立・登録されました。主な業務は、金利、為替、株式、コモディティ、およびクレジット商品にリンクしたデリバティブ商品の取引を含む銀行業です。

■ マネープール・コースは、T&Dマネープールマザーファンドを親投資信託(マザーファンド)としたファミリーファンド方式で運用を行います。ファミリーファンド方式とは投資者からご投資いただいた資金をベビーファンドとしてまとめ、その資金を主としてマザーファンドに投資して、実質的な運用を行う仕組みです。



- マネープール・コースを除く各ファンドについても、T&Dマネープールマザーファンドに投資します。
- 各ファンド間でスイッチングを行うことができます。
- マネープール・コースの購入はスイッチングによる場合のみとします。

資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

米国リートおよび各カバードコール戦略等の運用は、クレディ・スイス・グループのクレディ・スイス・マネジメント(ケイマン)リミテッドが行います。

クレディ・スイス・グループ

スイスのチューリッヒに本拠を置くクレディ・スイスは、世界40カ国余りで事業を展開するグローバルな金融グループです。世界有数のウェルス・マネジメントを中核に、インベストメント・バンキング、スイス・バンク、アセット・マネジメントの四分野において、世界中の事業法人、機関投資家、富裕層個人顧客、またスイス国内の一般個人顧客に多彩な金融サービスを提供しています。

クレディ・スイス・マネジメント(ケイマン)リミテッド

クレディ・スイス・マネジメント(ケイマン)リミテッドは2000年1月4日にケイマン諸島会社法に基づきケイマン諸島に設立されたクレディ・スイス・グループの関連会社です。ファンドの資産の運用・管理、受益証券の発行・買戻し等を行います。

1. 米国リートへの投資とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略（マネーボール・コースを除く）

米国リート上場投資信託証券(ETF)を実質的な主要投資対象とします。

iシェアーズ 米国不動産ETF

米国の不動産セクターの株式で構成される指数と同等の投資成果をあげることを目指す米国籍の上場投資信託証券(ETF)です。

iShares®(iシェアーズ®)はブラックロックの登録商標です。ブラックロックは、「米国リート・プレミアムファンド(毎月分配型)円ヘッジ・コース/通貨プレミアム・コース」について出資、発行、保証、販売および販売の促進をするものではありません。

またブラックロックは、「米国リート・プレミアムファンド(毎月分配型)円ヘッジ・コース/通貨プレミアム・コース」への投資についてなんら意見を表明、あるいは保証するものではなく、ファンドにかかる業務、営業、トレーディングおよび販売に関して、一切責任を負うものではありません。

米国のリート市場全体(ETF等)にかかるコールオプションおよび米ドル(対円)にかかるコールオプションを売却*することでカバードコール戦略を構築します。

*米ドル(対円)にかかるコールオプションの売却は「通貨プレミアム・コース」においてのみ行います。

カバードコール戦略とは、ある特定の資産への投資に加え、当該資産等を対象とするコールオプションを売る戦略です。この戦略により、当該資産の値上がり益等とともに、オプション料(プレミアム)収入の獲得が期待されます。ただし、オプション取引の満期時(権利行使日)における当該資産の価格水準によっては、一定以上の値上がり益(権利行使価格を超えて値上がりした分)を放棄することがあります。

【一般的なコールオプションとは】

- コールオプションとは、ある特定の資産(株式など)を将来の特定期日(満期日など)に、あらかじめ定められた価格(=権利行使価格)で買う権利のことです。
- この権利を売却する対価として、売り手はオプション料(プレミアム)収入を獲得できますが、同時に満期日などにおいて権利行使に応じる義務を負います。
- 対象資産の価格水準や価格の変動率が上昇すること等が、コールオプションの市場価格の上昇要因となります。
- 満期日などに対象資産の市場価格が権利行使価格を上回っていた場合、コールオプションの買い手が権利を行使することで、売り手にとっては損失を被る要因となります。

ファンドのカバードコール戦略

米国リートカバードコール戦略 「円ヘッジ・コース」および「通貨プレミアム・コース」において行います。



ファンドでは、米国リート(ETF)とオプション取引(米国リート(ETF)にかかるコールオプションの売却)を組み合わせたカバードコール戦略を「米国リートカバードコール戦略」といいます。

通貨カバードコール戦略 「通貨プレミアム・コース」において行います。



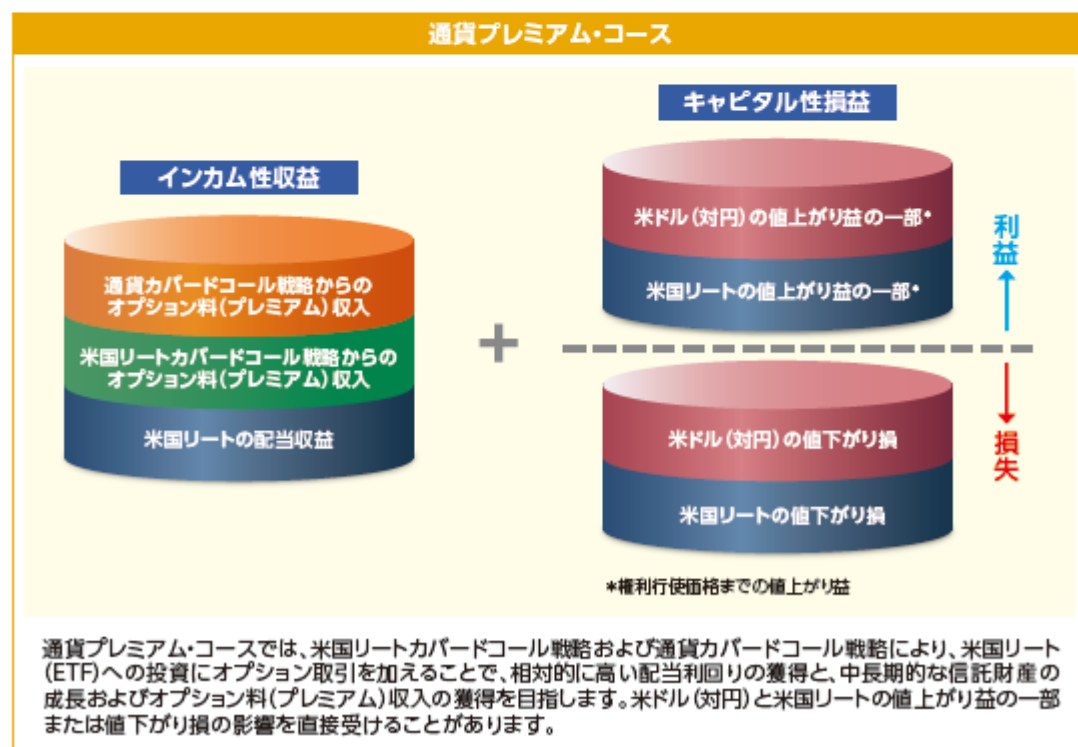
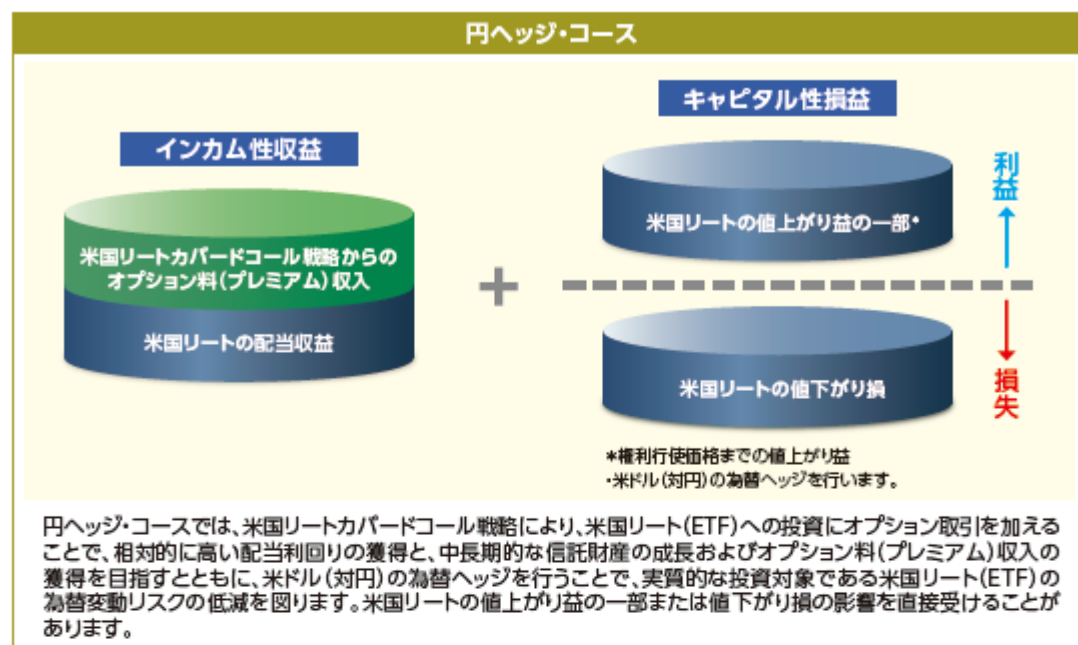
ファンドでは、米ドル(対円)の為替変動とオプション取引(米ドル(対円)にかかるコールオプションの売却)を組み合わせたカバードコール戦略を「通貨カバードコール戦略」といいます。

※原則として権利行使が満期日のみに限定されているオプションを利用することを基本とします。

※各コールオプションの満期時においては、目標とするオプション料(プレミアム)収入が獲得できるような権利行使価格で各カバードコール戦略を再構築することを基本とします。

市場環境によっては期待した収益が得られない場合があります。将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

2.「円ヘッジ・コース」と「通貨プレミアム・コース」の投資戦略と損益イメージ



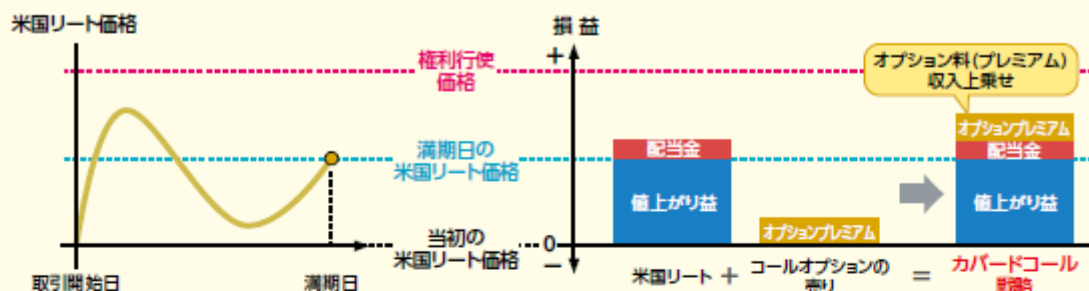
資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

米国リートカバードコール戦略の効果(損益)のイメージ

ケースⅠ

米国リート価格は上昇したが、満期日に権利行使価格に到達しなかった場合

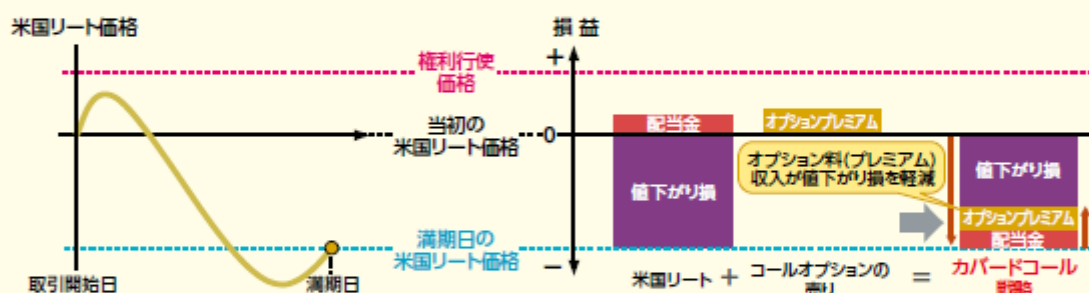
米国リート価格の値上がり益に、オプション料(プレミアム)収入が上乗せされます。



ケースⅡ

米国リート価格が下落し、満期日に当初米国リート価格を下回った場合

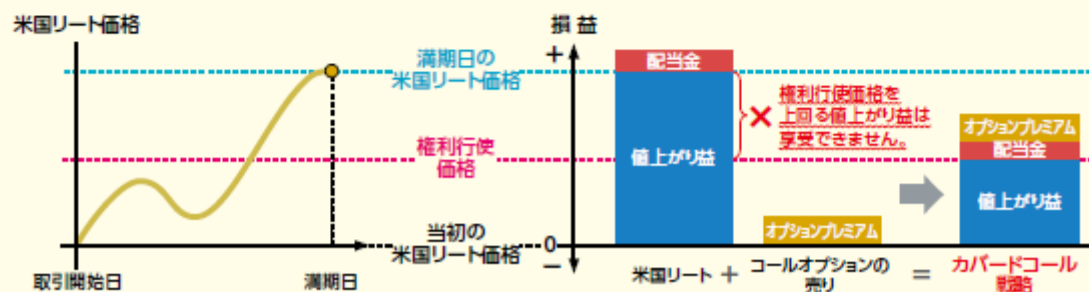
米国リート価格の下落による値下がり損が発生しますが、オプション料(プレミアム)収入により、価格下落の損失の軽減が期待できます。



ケースⅢ

米国リート価格が上昇し、満期日に権利行使価格以上となった場合

米国リート価格の値上がり益が発生しますが、権利行使価格を上回った分の利益は受け取れません。



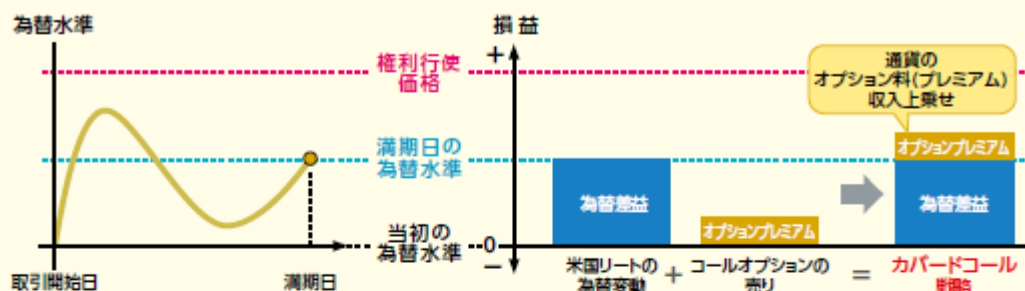
上図は「米国リートカバードコール戦略」の損益イメージを表したものであり、ファンドの損益を示したものではありません。
記載の内容は将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

通貨カバードコール戦略の効果(損益)のイメージ

ケースⅠ

米ドル(対円)は上昇したが、満期日に権利行使価格に到達しなかった場合

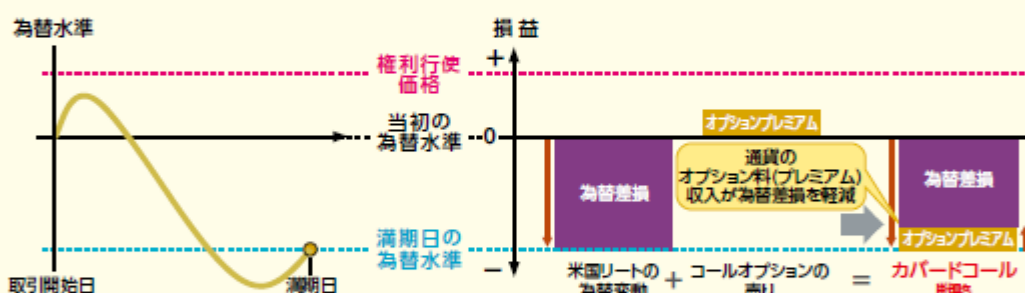
米ドル(対円)の為替差益に、オプション料(プレミアム)収入が上乗せされます。



ケースⅡ

米ドル(対円)が下落し、満期日に当初の為替水準を下回った場合

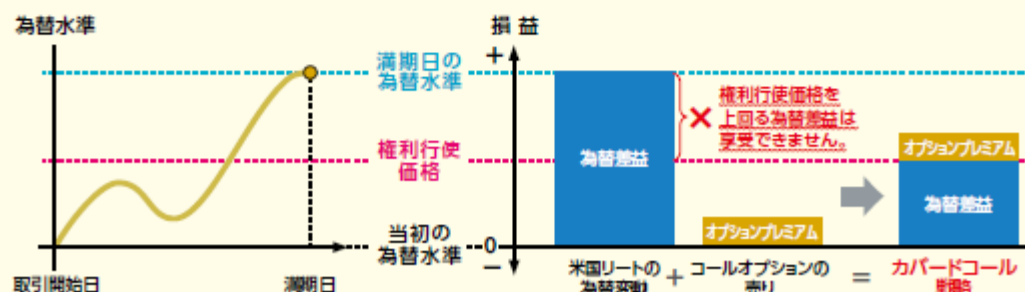
米ドル(対円)の下落による為替差損が発生しますが、オプション料(プレミアム)収入により為替差損の軽減が期待できます。



ケースⅢ

米ドル(対円)が上昇し、満期日に権利行使価格以上となった場合

米ドル(対円)の為替差益が発生しますが、権利行使価格を上回った分の利益は受け取れません。



上図は「通貨カバードコール戦略」の損益イメージを表したものであり、ファンドの損益を示したものではありません。

記載の内容は将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

分配方針

各ファンド(マネープール・コースを除く)

毎決算時(毎月20日、休業日の場合は翌営業日)に分配を行います。

ただし、必ず分配を行うものではありません。

- 分配金額は、分配対象額の範囲内で委託会社が決定するものとし、原則として、インカム収益を中心に分配を行うことを目指します。
ただし、基準価額水準等によっては、売買益(評価益を含みます。)が中心となる場合があります。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。



上記はイメージ図であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。

※分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。

マネープール・コース

毎決算時(年2回、1月および7月の各20日、休業日の場合は翌営業日)に分配を行います。

ただし、必ず分配を行うものではありません。分配金額は、分配対象額の範囲内で委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。

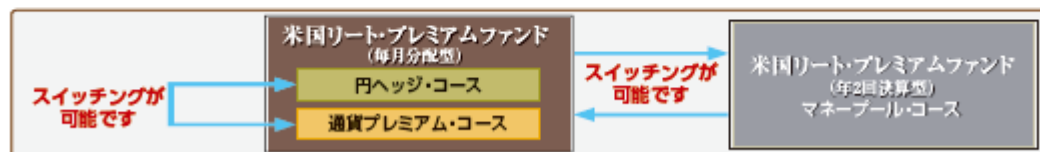
スイッチングについて

各ファンド間でスイッチングが可能です。

スイッチングとは、保有しているファンドの換金と同時に他のファンドを購入することをいいます。なおスイッチングの取扱の有無および手数料等につきましては、販売会社により異なる場合があります。

詳しくは販売会社にお問い合わせください。

※マネープール・コースの購入はスイッチングによる場合のみとします。



上記はファンドで行うことができるスイッチングのイメージ図です。

- ④信託金の限度額は各ファンドにつき4,000億円です。ただし、受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

収益分配金に関する留意事項

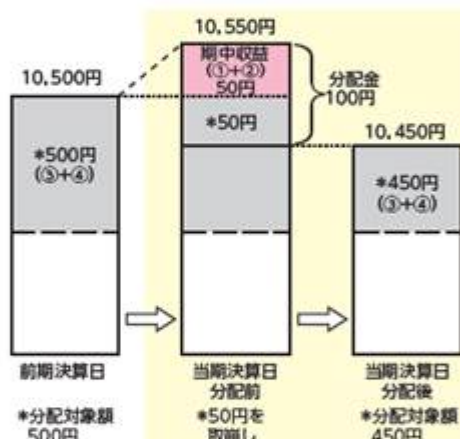
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



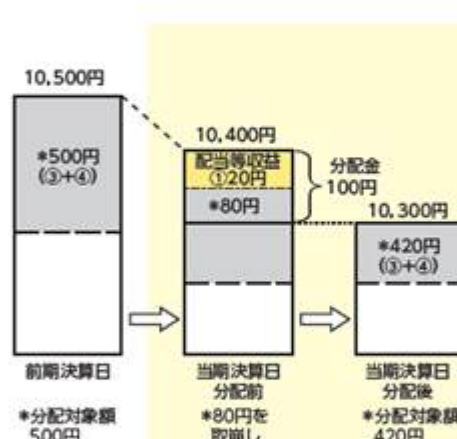
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合



(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり幅が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

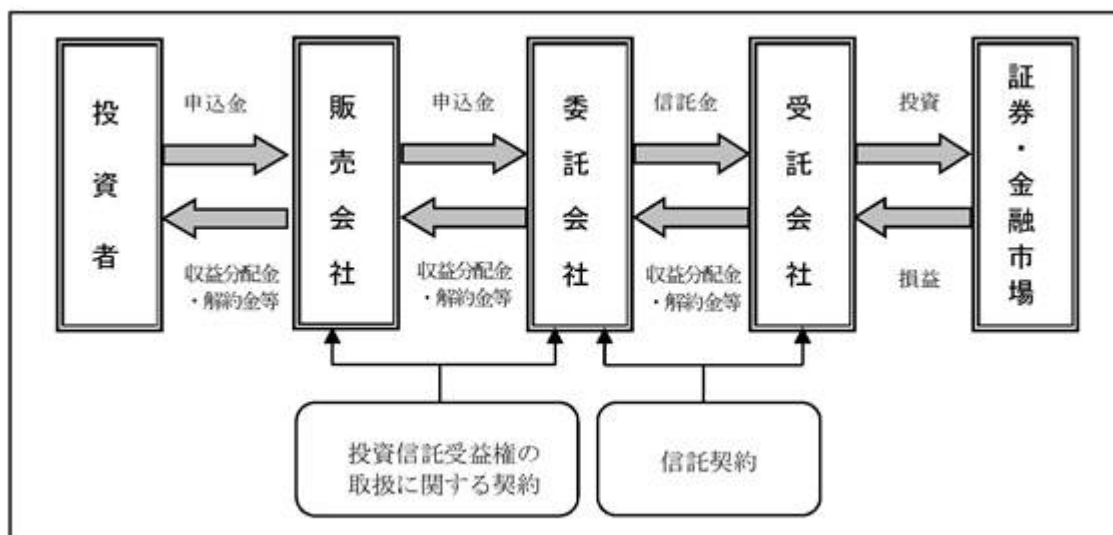
(2) 【ファンドの沿革】

2012年 8月31日 円ヘッジ・コース、通貨プレミアム・コースの信託契約締結、設定、運用開始

2012年12月20日 マネープール・コースの信託契約締結、設定、運用開始

(3) 【ファンドの仕組み】

①ファンドの仕組み図



②ファンド・オブ・ファンズについて

毎月分配型は、ファンド・オブ・ファンズ形式で運用を行います。

詳しくは、前述「（１）ファンドの目的及び基本的性格 ③ファンドの特色 ファンドの仕組み」をご参照ください。

なお、「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）II-U Sリート・プレミアムファンド（以下「外国投資信託」ということがあります。）」における米国リート運用や各カバードコール戦略等の運用は、クレディ・スイス・マネジメント（ケイマン）リミテッドが行います。

③ファミリーファンド方式の仕組み

マネープール・コースは、運用効率化のためファミリーファンド方式で運用を行います。

ファミリーファンド方式とは、投資者からご投資いただいた資金をベビーファンドとしてまとめ、その資金を主としてマザーファンドに投資して、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。

④委託会社およびファンドの関係法人の名称およびファンドの運営上の役割

（委託会社が関係法人と締結している契約等の概要を含みます。）

a. 委託会社

T & Dアセットマネジメント株式会社

委託会社は、信託約款（信託契約）の規定等に基づき主に次の業務を行います。

- (1) 信託約款の届出
- (2) 信託財産の運用指図
- (3) 信託財産の計算（毎日の基準価額の計算）
- (4) 目論見書および運用報告書の作成等

b. 受託会社

三菱UFJ信託銀行株式会社

（再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）

受託会社は、信託約款（信託契約）の規定等に基づき主に次の業務を行います。

- (1) 信託財産の保管・管理・計算
- (2) 委託会社の指図に基づく信託財産の処分等

c. 販売会社

販売会社は、委託会社との間に締結した「投資信託受益権の取扱に関する契約書」（別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約を含みます。）等に基づき、主に次の業務を行います。

- (1) 受益権の募集・販売の取扱い
- (2) 受益権の換金（解約）申込の取扱い
- (3) 換金代金、収益分配金および償還金の支払の取扱い
- (4) 目論見書、運用報告書の交付等

⑤委託会社の概況

a. 資本金

2023年2月末日現在 11億円

b. 会社の沿革

1980年12月19日 第一投信株式会社設立
同年12月26日「証券投資信託法」（当時）に基づく免許取得

1997年12月 1日 社名を長期信用投信株式会社に変更

1999年 2月25日 大同生命保険相互会社（現：大同生命保険株式会社）の傘下に入る

1999年 4月 1日 社名を大同ライフ投信株式会社に変更

2002年 1月24日 投資顧問業者の登録

2002年 6月11日 投資一任契約に係る業務の認可

2002年 7月 1日 ティ・アンド・ディ太陽大同投資顧問株式会社と合併、
ティ・アンド・ディ・アセットマネジメント株式会社に社名を変更

2006年 8月28日 社名をT & Dアセットマネジメント株式会社に変更

2007年 3月30日 株式会社T & Dホールディングスの直接子会社となる

2007年 9月30日 金融商品取引法の施行に伴い、第二種金融商品取引業、
投資助言・代理業、投資運用業の登録

c. 大株主の状況

2023年2月末日現在

株主名	住所	所有株数	所有比率
株式会社T & Dホールディングス	東京都中央区日本橋二丁目7番1号	1,082,500株	100%

2 【投資方針】

(1) 【投資方針】

「円ヘッジ・コース」

<基本方針>

この投資信託は、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。

<投資対象>

外国投資信託証券であるクレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）II-USリート・プレミアムファンド（円ヘッジ・クラス）および国内の証券投資信託であるT & Dマネープールマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。

<投資態度>

- ① 外国投資信託証券を通じて、実質的に、i シェアーズ 米国不動産E T Fと米国リート・オプション取引の投資成果を享受し、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。
- ② 外国投資信託証券への投資割合は、資金動向や市況動向などを勘案して決定するものとし、外国投資信託の組入比率は原則として高位とすることを基本とします。
- ③ 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行った投資成果を享受します。
- ④ 資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

「通貨プレミアム・コース」

<基本方針>

この投資信託は、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。

<投資対象>

外国投資信託証券であるクレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）II-USリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）および国内の証券投資信託であるT & Dマネープールマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。

<投資態度>

- ① 外国投資信託証券を通じて、実質的に、i シェアーズ 米国不動産 E T Fと米国リート・オプション取引へ投資することに加えて、為替（米ドル買い／円売り）オプション取引の投資成果を享受し、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。
- ② 外国投資信託証券への投資割合は、資金動向や市況動向などを勘案して決定するものとし、外国投資信託の組入比率は原則として高位とすることを基本とします。
- ③ 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
- ④ 資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

「マネープール・コース」

＜基本方針＞

この投資信託は、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行います。

＜投資対象＞

T & Dマネープールマザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）受益証券を主要投資対象とします。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。

＜投資態度＞

- ① マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的にわが国の短期公社債等に投資し、利息等収益の確保を目指します。
- ② 資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

（２）【投資対象】

「毎月分配型」

①以下を主要投資対象とします。

ケイマン籍 外国投資信託「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）II-USリート・プレミアムファンド」

親投資信託「T & Dマネープールマザーファンド」

②この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

a. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。）

(1)有価証券

(2)金銭債権

(3)約束手形

b. 次に掲げる特定資産以外の資産

(1)為替手形

③委託会社は、信託金を、外国投資信託およびマザーファンドならびに次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

(1)国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券および社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券を除きます。）

(2)コマーシャル・ペーパー

(3)外国または外国の者の発行する証券または証書で、前2号の証券または証書の性質を有するもの

なお、(1)の証券を以下「公社債」といい、公社債に係る運用の指図は、短期社債等への投資ならびに現先取引および債券貸借取引に限り行うことができます。

④委託会社は、信託金を③に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

(1)預金

(2)指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）

(3)コール・ローン

(4)手形割引市場において売買される手形

「マネープール・コース」

①この信託において投資の対象とする資産（本邦通貨表示のものに限ります。）の種類は、次に掲げるものとします。

a. 次に掲げる特定資産

(1)有価証券

(2)デリバティブ取引に係る権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款に定めるものに限りします。）

(3)金銭債権

(4)約束手形

b. 次に掲げる特定資産以外の資産

(1)為替手形

②委託会社は、信託金を、マザーファンドおよび次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

(1)国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券および社債券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を除きます。）

(2)特定目的会社に係る特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）

(3)投資法人債券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）

(4) 転換社債の転換および新株予約権（転換社債型新株予約権付社債の新株予約権に限ります。）の行使により取得した株券

(5) コマーシャル・ペーパー

(6) 新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。）および新株予約権証券

(7) 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの

(8) 投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）

(9) 投資証券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）

(10) 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）

(11) 外国法人が発行する譲渡性預金証書

(12) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの

(13) 外国の者に対する権利で前号の有価証券に表示されるべき権利の性質を有するもの

(14) 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

(15) 抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）

なお、(4)の証券または証書および(7)の証券または証書のうち(4)の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、(1)から(3)の証券ならびに(7)の証券または証書のうち(1)から(3)の証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、(8)および(9)の証券を以下「投資信託証券」といいます。

③ 委託会社は、信託金を②に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

(1) 預金

(2) 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）

(3) コール・ローン

(4) 手形割引市場において売買される手形

(5) 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの

(6) 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

(参考)

投資する投資信託証券の概要

ファンド名	(円ヘッジ・クラス) クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅱ-US リート・プレミアムファンド(円ヘッジ・クラス) 英名: Credit Suisse Universal Trust (Cayman) II-US REIT Premium Fund (JPY Hedged Class) (通貨プレミアム・クラス) クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅱ-US リート・プレミアムファンド(通貨プレミアム・クラス) 英名: Credit Suisse Universal Trust (Cayman) II-US REIT Premium Fund (Currency Premium Class)
分類	ケイマン籍／外国投資信託／円建
設定日	2012年9月3日
運用基本方針 主な投資対象	(円ヘッジ・クラス) 主として担保付スワップ取引を投資対象とし、当該取引を通じて、実質的に、iシェアーズ 米国不動産ETFと米国リート・オプション取引の投資成果と、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行った投資成果の享受を目指します。 (通貨プレミアム・クラス) 主として担保付スワップ取引を投資対象とし、当該取引を通じて、実質的に、iシェアーズ 米国不動産ETFと米国リート・オプション取引に加えて、為替オプション取引の投資成果と、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。
投資態度	(円ヘッジ・クラス) ①実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行った投資成果の享受を目指します。 ②原則として、米国リート・オプション取引の実質的な想定元本は、おおむね純資産相当額程度で行うものとします。 (通貨プレミアム・クラス) ①実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 ②原則として、米国リート・オプション取引ならびに為替オプション取引の各々の実質的な想定元本は、それぞれおおむね純資産相当額程度で行うものとします。 ※資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。
主な投資制限	①店頭オプション、上場オプション、ETFには原則として直接投資を行いません。 ②有価証券の空売りは行いません。
分配方針	原則として、毎月分配を行います。
決算日	1月末日
運用報酬	純資産総額の年0.50%程度 その他、信託財産に関する租税、信託事務の処理に関する費用および信託財産の監査に要する費用、外貨建資産の保管などに要する費用、外国投資信託の設立に係る費用などを負担します。
投資顧問会社	クレディ・スイス・マネジメント(ケイマン)リミテッド

ファンド名	T&Dマネープールマザーファンド
分類	親投資信託
設定日	2005年2月28日
運用基本方針	安定した収益の確保を目指して運用を行います。
主な投資対象	わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
主な投資制限	①株式への投資は行いません。 ②外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	分配は行いません。
決算日	6月、12月の各10日(休業日の場合は翌営業日)
信託報酬等	信託報酬、申込手数料、信託財産留保額はありません。
委託会社	T&Dアセットマネジメント株式会社

各概要は2022年12月末日現在のものであり、今後変更になる場合があります。

（４）【分配方針】

毎月分配型は年12回、マネープール・コースは年2回、毎決算時（毎月分配型は原則として毎月20日、マネープール・コースは原則として1月、7月の各20日。ただし、該当日が休業日の場合は翌営業日）に、原則として以下の方針に基づき収益の分配を行います。

「毎月分配型」

- ①分配対象額は、経費控除後の配当等収益および売買益等の全額とします。
 - ②分配金額は、分配対象額の範囲内で委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。
 - ③原則として、配当等収益を中心に分配を行うことを目指します。ただし、基準価額水準等によっては売買益が中心となる場合があります。また、必ず分配を行うものではありません。
 - ④収益分配に充てず、信託財産に留保した利益については、運用の基本方針にしたがって運用を行います。
- ※将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。
- ※配当等収益とは、配当金、利子およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額で、諸経費、監査費用（税込）、信託報酬（税込）を控除した後、その残金を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。
- ※売買益とは、売買損益に評価損益を加減して得た利益金額で、諸経費、監査費用（税込）、信託報酬（税込）を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積み立てることができます。
- ※毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。

「マネープール・コース」

- ①分配対象額は、経費控除後の配当等収益および売買益等の全額とします。
 - ②分配金額は、分配対象額の範囲内で委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。
 - ③収益分配に充てず、信託財産に留保した利益については、運用の基本方針にしたがって運用を行います。
- ※将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。
- ※配当等収益とは、配当金、利子、貸付有価証券に係る品貸料およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額で、諸経費、監査費用（税込）、信託報酬（税込）を控除した後、その残金を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。
- ※売買益とは、売買損益に評価損益を加減して得た利益金額で、諸経費、監査費用（税込）、信託報酬（税込）を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積み立てることができます。
- ※毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。

（５）【投資制限】

「毎月分配型」

- ①投資信託証券への投資割合には制限を設けません。
- ②株式への直接投資は行いません。
- ③外貨建資産への直接投資は行いません。
- ④有価証券先物取引等の派生商品取引の指図は行いません。
- ⑤組入投資信託証券が、一般社団法人投資信託協会の規則に定めるエクスポージャーがルックスルーできる場合に該当しないときは、同一銘柄の投資信託証券への投資は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- ⑥一般社団法人投資信託協会の規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会の規則に従い当該比率以内となるよう調整を行います。

- ⑦ a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性を図るため、信託財産において換金代金の支払資金の手当て（換金に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金の借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- b. 換金に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への換金代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または解約代金の入金日までの間もしくは償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入れ指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。
- c. 収益分配金の再投資に係る借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- d. 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

「マネープール・コース」

- ① 株式への直接投資は行いません。株式への投資は、転換社債の転換および新株予約権（転換社債型新株予約権付社債の新株予約権に限り、）を行使したものに限り、委託会社は、信託財産に属する株式の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。
- ② 投資信託証券（マザーファンドの受益証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。
- ③ 外貨建資産への投資は行いません。
- ④ 一般社団法人投資信託協会の規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会の規則に従い当該比率以内となるよう調整を行います。
- ⑤ デリバティブ取引等については、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額として、一般社団法人投資信託協会規則および委託会社が定める合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産を超えないこととします。
- ⑥ 委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、わが国の金融商品取引所に上場（上場予定を含みます。）されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。
- ⑦ a. 委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。
- b. 委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該新株引受権証券および当該新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。
- ⑧ 委託会社は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該転換社債および当該転換社債型新株予約権付社債の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。
- ⑨ a. 委託会社は、信託財産が運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引ならびに外国の金融商品取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めて取り扱うものとします。

- b. 委託会社は、信託財産が運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における金利に係る先物取引およびオプション取引ならびに外国の金融商品取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。
- ⑩ a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の各号の範囲で貸付けることの指図をすることができます。
- (1) 株式の貸付けは、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。
- (2) 公社債の貸付けは、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
- b. 前項に定める限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
- c. 委託会社は、有価証券の貸付けにあたって必要と認めたときは、担保の受入れの指図を行うものとします。
- ⑪ a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性を図るため、信託財産において一部解約金の支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金の借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- b. 一部解約に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への換金代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または解約代金の入金日までの間もしくは償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入れ指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。
- c. 収益分配金の再投資に係る借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- d. 借入金の利息は信託財産中より支弁します。
- ※信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンド受益証券の時価総額に、マザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

3【投資リスク】

（1）基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、投資を行っている有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による利益および損失は全て投資者に帰属します。

したがって、ファンドは投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。なお、ファンドは預貯金とは異なります。

ファンドの基準価額の変動要因となる主なリスクは次の通りです。

「毎月分配型」

①価格変動リスク

リートの価格は、当該リートの組入不動産等の価値や賃料、不動産市況の変動、リートに関する法制度の変更等様々な市場・経済の状況等を反映して変動します。組入リートの市場価格が下落した場合、基準価額が値下がりする要因となります。

②為替変動リスク

（円ヘッジ・コース）

外国投資信託においては実質的な組入資産（米ドル建て）について、原則として実質的に円買い/米ドル売りの為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図りますが、完全にヘッジすることは出来ませんので、円に対する米ドルの為替変動の影響を受ける場合があります。

（通貨プレミアム・コース）

外国投資信託においては実質的な組入資産（米ドル建て）について、原則として実質的に為替ヘッジを行いませんので、円に対する米ドルの為替変動の影響を受けます。円高局面となり組入資産の評価額が下落した場合、基準価額が値下がりする要因となります。

※「円ヘッジ・コース」における為替ヘッジにおいて、円の短期金利が米ドルの短期金利より低い場合はその金利差相当分の為替ヘッジコスト（金利差相当分の費用）が発生することにご留意ください。

③カバードコール戦略に伴うリスク

（円ヘッジ・コース）

- 外国投資信託においては、実質的にリートに投資するとともに、カバードコール戦略により、リー트의コールオプションの売却を行います。売却したコールオプションの価値は、売却後にリー트의価格や変動率が上昇した場合等には上昇し、これにより損失を被る可能性があります。
- カバードコール戦略では、オプション料（プレミアム）収入を受け取る一方、リー트의価格がコールオプションの権利行使価格を超えて上昇した場合には権利行使に伴う支払いが発生します。このため、カバードコール戦略を行わずにリートに投資した場合に比べ、投資成果が劣る可能性があります。
- オプション料（プレミアム）収入の水準は、コールオプションの売却を行う時点のリー트의価格や変動率、権利行使価格水準、満期までの期間、市場での需給関係等複数の要因により決まりますので、当初想定したオプション料（プレミアム）収入の水準が確保できない可能性があります。
- カバードコール戦略において、特定の権利行使期間でリー트의価格が下落した場合、カバードコール戦略を再構築した場合のリー트의値上がり益は、再構築日に設定される権利行使価格までの上昇に伴う収益に限定されますので、その後に当初の水準までリー트의価格が回復しても、ファンドの基準価額は当初の水準を下回る可能性があります。

（通貨プレミアム・コース）

- 外国投資信託においては、実質的にリートに投資するとともに、カバードコール戦略により、リートおよび米ドル（対円）のコールオプションの売却を行います。売却した各コールオプションの価値は、売却後にリー트의価格や為替レート水準、変動率が上昇した場合等には上昇し、これにより損失を被る可能性があります。
- カバードコール戦略では、オプション料（プレミアム）収入を受け取る一方、リー트의価格や米ドル（対円）がコールオプションの権利行使価格を超えて上昇した場合には権利行使に伴う支払いが発生します。このため、各カバードコール戦略を行わずにリートに投資した場合に比べ、投資成果が劣る可能性があります。
- オプション料（プレミアム）収入の水準は、コールオプションの売却を行う時点のリー트의価格や為替レート水準、変動率、権利行使価格水準、満期までの期間、市場での需給関係等複数の要因により決まりますので、当初想定したオプション料（プレミアム）収入の水準が確保できない可能性があります。
- カバードコール戦略において、特定の権利行使期間でリー트의価格や為替レートが下落した場合、カバードコール戦略を再構築した場合のリー트의価格、通貨の値上がり益は、再構築日に設定される権利行使価格までの上昇に伴う収益に限定されますので、その後に当初の水準までリー트의価格や為替レート水準が回復しても、ファンドの基準価額は当初の水準を下回る可能性があります。

④スワップ取引に伴うリスク

投資対象である外国投資信託におけるスワップ取引では、取引の相手方から担保を受取ることで信用リスクの低減を図りますが、相手方の倒産や契約不履行、その他不測の事態が生じた場合には、運用の継続は困難となり、将来の投資成果を享受することは出来ず、また、担保を処分する際に想定した価格で処分できない可能性があることから損失を被る場合があります。

投資対象の外国投資信託は、スワップ取引の相手方が現実に取引するオプション取引については、何らの権利も有しておりません。

⑤流動性リスク

市場規模や取引量が小さい場合、市場における取引の不成立や通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされる可能性があります、これらの場合には、基準価額が値下がりする要因となります。

「マネープール・コース」

○価格変動リスク

債券（公社債）は、市場金利や信用度の変動により価格が変動します。一般に市場金利が上昇した場合や発行体の信用度が低下した場合には債券の価格は下落し、基準価額が値下がりする要因となります。

※基準価額の変動要因（リスク）は、上記に限定されるものではありません。

（２）その他の留意点

- ①ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ②大量の解約・換金申込を受け付け短期間で解約資金を準備する必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、投資する有価証券の価格が下落し、基準価額が変動する要因となります。また、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。
- ③ファンドは、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入いただいた場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

（３）リスクの管理体制

委託会社では、運用部門は定められた運用プロセスを通じて投資リスクを管理します。

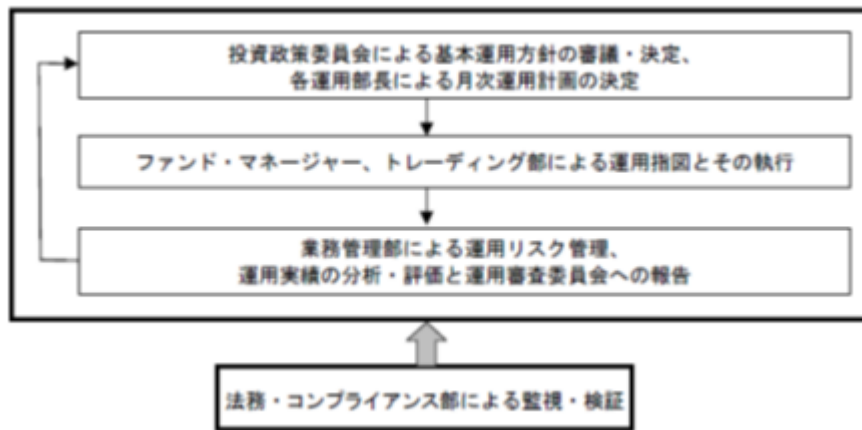
また、運用部門から独立した部門がファンドのパフォーマンス分析・評価および法令・運用諸規則等に照らした適正性の審査等の結果について、各種委員会等に報告を行い、必要に応じて適切な措置を講じる体制となっております。

なお、流動性リスク管理について社内規程を制定し、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリング等を実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証等を行います。流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢については、定期的にリスク管理委員会および取締役会への報告を行います。

委託会社のリスクの管理体制は、以下の通りです。

委託会社は、社内規程において投資リスクに関する取扱い基準およびその管理体制についても定めており、下記の運用体制のサイクル自体が、投資リスクの管理体制を兼ねたものとなっています。

- ・ファンド・マネージャーは定期的に、投資環境および市況見通し、ポートフォリオの状況および運用成果等をモニタリングして運用リスクの管理を行いつつ、原則として月次にて（投資環境および市況の著しい変化等に対応する場合には随時）運用計画の見直しを行い、各運用部長による承認を経て、実際の運用指図を行い、トレーディング部がその執行を行っています。
- ・業務管理部は、運用リスク管理を所管するとともに、ファンドのパフォーマンス分析・評価等を月次にて行い、運用審査委員会に報告を行うことにより、運用成績の改善のサポートを行っています。
- ・法務・コンプライアンス部は、法令、約款等、運用諸規則・運用制限に照らした適正性の監視・検証を行い、コンプライアンス委員会および取締役会に報告を行っています。



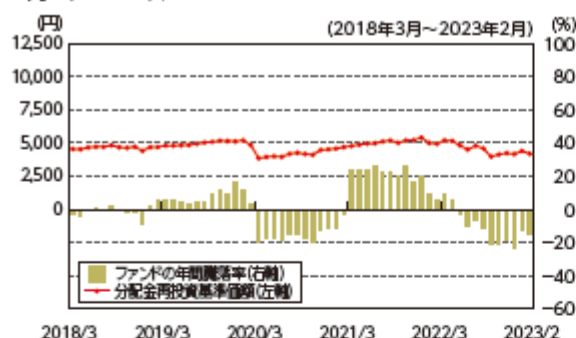
リスクの管理体制は2023年2月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

<参考情報>

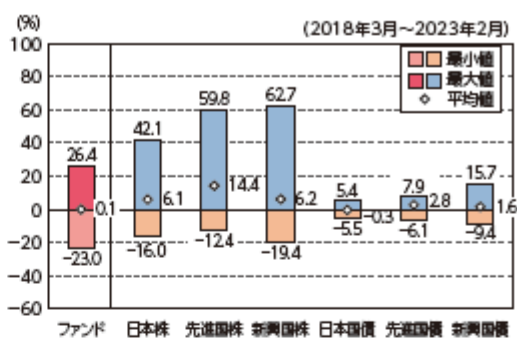
代表的な資産クラスとの騰落率の比較

<ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移>

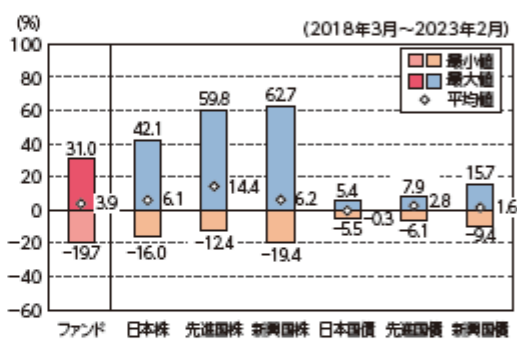
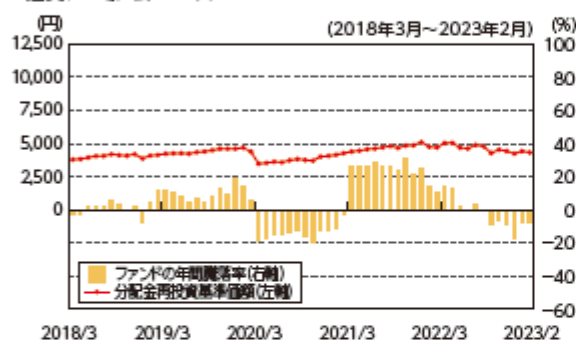
円ヘッジ・コース



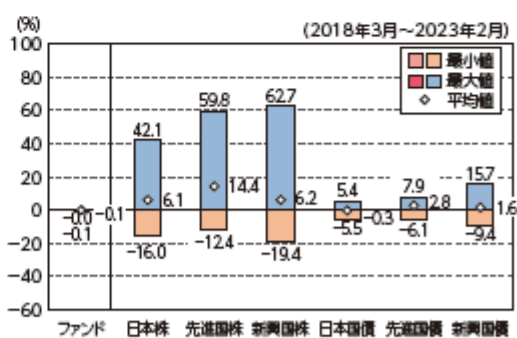
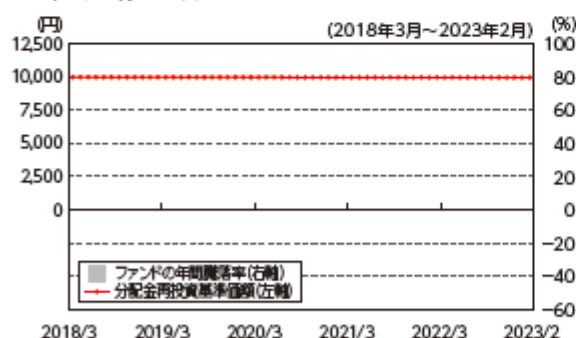
<ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較>



通貨プレミアム・コース



マネーブルー・コース



(注) ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額が記載されており、実際の基準価額及び実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※左のグラフの分配金再投資基準価額は、2018年3月末の基準価額を起点として指数化したものです。

※右のグラフは、2018年3月から2023年2月の5年間の各月末における直近1年間騰落率の平均・最大・最小を、ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

※右のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものであり、全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

※上記の騰落率は2023年2月末から遡って算出した結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

○各資産クラスの指数

日本株・・・ 東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株・・・ MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)
新興国株・・・ MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)
日本国債・・・ NOMURA-BPI国債
先進国債・・・ FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)
新興国債・・・ JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円ベース)

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

※詳細は「指数に関して」をご参照ください。

●指数に関して

○[代表的な資産クラスとの騰落率の比較]に用いた指数について

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) とは、株式会社 J P X 総研が算出する株価指数で、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークです。TOPIXに関する一切の知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研に帰属します。

MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCIコクサイ・インデックスはMSCIが開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国の株式市場の動きを捉える指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。

MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した新興国の株式市場の動きを捉える株価指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。

NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、日本で発行されている公募利付国債の市場全体を表す投資収益指数です。その知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、対象インデックスを用いて行われるT&Dアセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円ベース)

JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイドは、JPモルガン社が算出し公表している、現地通貨建てのエマージング・マーケット債で構成されている指数です。同指数の著作権はJPモルガン社に帰属します。

4【手数料等及び税金】

（１）【申込手数料】

3.85%（税抜3.5%）を上限として、販売会社が個別に定める率を、発行価格に乗じて得た額とします。

申込手数料は、ファンドの商品説明、販売に係る事務費用等の対価です。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

なお、収益分配金を再投資する場合は無手数料とします。

また、マネープール・コースへのスイッチングには、申込手数料はかかりません。

（２）【換金（解約）手数料】

換金手数料はありません。ただし、換金の際には、換金申込受付日の翌営業日の基準価額に0.3%の率を乗じて得た額を信託財産留保額^{*}としてご負担いただきます。

＊「信託財産留保額」とは、運用の安定性を高めるとともに、継続保有される投資者との公平性を確保するため、換金する投資者が負担する一定の金額をいい、信託財産に繰り入れられます。

＊マネープール・コースの換金の際には、「信託財産留保額」はかかりません。

（３）【信託報酬等】

「毎月分配型」

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年1.353%（税抜1.23%）を乗じて得た額とします。

信託報酬の分配については、以下の通りとします。

[信託報酬＝運用期間中の基準価額×信託報酬率] (年率・税抜)

支払先	信託報酬率	対価の内容
委託会社	0.40%	委託した資金の運用等の対価
販売会社	0.80%	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
受託会社	0.03%	運用財産の保管および管理、委託会社からの指図の実行等の対価

上記の信託報酬の総額は日々費用計上され、ファンドの基準価額に反映されます。

なお、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁します。

その他、投資対象とする外国投資信託の信託報酬等として、当該ファンドの純資産総額の年0.50%程度を信託財産中から支弁します。したがって、ファンドの実質的な信託報酬等の水準は、信託財産の純資産総額の年1.853%（税抜1.73%）程度となります。

外国投資信託において上記の他、信託財産に関する租税、組入有価証券の売買手数料、信託事務の処理に関する費用および信託財産の監査に要する費用、外貨建資産の保管等に要する費用、外国投資信託の設立に係る費用等を負担します。

「マネープール・コース」

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額の年0.605%（税抜0.55%）を上限として、金利水準によって変動します。

前月の最終営業日の翌日から当月の最終営業日までの日々の信託報酬率は、当該各月の前月最終5営業日間の当該信託の日々の基準価額算出に用いたコール・ローンのオーバーナイト物レートの最低レート（以下「コールレート」といいます。）に応じた次に掲げる率とします。なお、月中において、日々の基準価額算出に用いたコール・ローンのオーバーナイト物レートが信託報酬率を下回った場合には、その翌日以降の信託報酬率はそのコール・ローンのオーバーナイト物レートをコールレートとし、次に掲げる率として見直す場合があります。

信託報酬の配分については、以下の通りとします。

[信託報酬＝運用期間中の基準価額×信託報酬率] (年率)

コールレート		0.4%未満	0.4%以上0.65%未満	0.65%以上
信託報酬率		0.165%（税抜0.15%）以内	0.330%（税抜0.3%）	0.605%（税抜0.55%）
配分 (税抜)	委託会社	0.065%以内	0.13%	0.22%
	販売会社	0.07%以内	0.14%	0.28%
	受託会社	0.015%以内	0.03%	0.05%

上記の信託報酬の総額は日々費用計上され、ファンドの基準価額に反映されます。

なお、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁します。

[信託報酬等の対価の内容]

委託会社：委託した資金の運用等の対価

販売会社：購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価

受託会社：運用財産の保管および管理、委託会社からの指図の実行等の対価

（４）【その他の手数料等】

①信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息は、受益者の負担とし、ファンドの信託財産中から支弁します。

②信託財産の財務諸表にかかる監査費用（税込）は、信託財産中から支弁します。

③証券取引に伴う手数料、組入資産の保管等に要する費用等は、信託財産中から支弁します。

また、組入外国投資信託においても、証券取引・オプション取引等に伴う手数料、その他ファンドの運営に必要な各種費用等がかかります。

その他の手数料等については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※上記の手数料等の合計額については、投資者がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※マザーファンドには、信託報酬および監査費用はありません。

（５）【課税上の取扱い】

ファンドは、課税上は株式投資信託として取扱われます。

公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度および未成年者少額投資非課税制度の適用対象です。

①個人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金は、配当所得として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率により源泉徴収が行われます。確定申告は不要ですが、確定申告を行い、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。

換金時および償還時の差益（譲渡益）については、譲渡所得として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による申告分離課税が適用されます。ただし、特定口座（源泉徴収選択口座）を利用した場合は、原則として確定申告は不要です。

なお、換金時および償還時の損益については、確定申告により、上場株式等の譲渡損益および申告分離課税を選択した上場株式等の配当所得ならびに特定公社債等（公募公社債投資信託を含みます。）の利子所得および譲渡所得等との損益通算が可能です。

○少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「愛称：ジュニアNISA」をご利用の場合

NISAおよびジュニアNISAは、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。

ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設する等、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

②法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに換金時および償還時の個別元本超過額については、15.315%（所得税15%および復興特別所得税0.315%）の税率により源泉徴収が行われます（地方税の源泉徴収はありません。）。

◆個別元本について

受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料（税込）は含まれません。）が当該受益者の個別元本にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回購入した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

ただし、同一ファンドを複数の販売会社で購入する場合には販売会社毎に、個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを購入する場合は当該支店毎に、一般コースと自動継続コースの両コースで購入する場合にはコース別に、個別元本の算出が行われる場合があります。

受益者が元本払戻金（特別分配金）を受取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

◆収益分配金の課税について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」の区分があります。

受益者が収益分配金を受取る際、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

外貨建資産への投資により外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※税金の取扱いについては、2023年2月末日現在のものであり、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

※詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

【米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）円ヘッジ・コース】

（１）【投資状況】

資産の種類別、地域別の投資状況

（2023年2月28日現在）

資産の種類	国／地域	時価合計（百万円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	ケイマン諸島	246	97.82
親投資信託受益証券	日本	2	0.67
現金・預金・その他の資産 （負債差引後）	日本	3	1.51
合計（純資産総額）	—	251	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

（２）【投資資産】

①【投資有価証券の主要銘柄】

a. 評価額上位銘柄（全銘柄）

（2023年2月28日現在）

	国／ 地域	種 類	銘 柄 名	券面総額	簿価単価（円） 簿価金額（円）	時価単価（円） 時価金額（円）	投資 比率 （％）
1	ケイマン 諸島	投資信託 受益証券	クレディ・スイス・ユニ バーサル・トラスト（ケ イマン）II-USリート・ プレミアムファンド（円 ヘッジ・クラス）	114,354.85	2,232.41 255,287,135	2,151.07 245,985,287	97.82
2	日本	親投資信託 受益証券	T & Dマネープール マザーファンド	1,653,709	1.0139 1,676,695	1.0139 1,676,695	0.67

（注）1 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各銘柄の評価額比率です。

2 投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

b. 投資有価証券の種類別比率

（2023年2月28日現在）

種類	投 資 比 率（％）
投資信託受益証券	97.82
親投資信託受益証券	0.67
合計	98.49

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各種類の評価額比率です。

②【投資不動産物件】

該当事項はありません。

③【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（３）【運用実績】

①【純資産の推移】

2023年2月末日及び同日前1年以内における各月末及び各特定期間末日の純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額 (分配落) (単位:百万円)	純資産総額 (分配付) (単位:百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落) (単位:円)	1口当たりの 純資産額 (分配付) (単位:円)
第2期 特定期間 (2013年7月22日現在)	7,627	8,356	0.9126	0.9726
第3期 特定期間 (2014年1月20日現在)	3,741	4,109	0.7992	0.8592
第4期 特定期間 (2014年7月22日現在)	2,095	2,293	0.7936	0.8536
第5期 特定期間 (2015年1月20日現在)	1,618	1,759	0.7614	0.8214
第6期 特定期間 (2015年7月21日現在)	1,132	1,241	0.6706	0.7306
第7期 特定期間 (2016年1月20日現在)	813	894	0.5956	0.6496
第8期 特定期間 (2016年7月20日現在)	684	735	0.6160	0.6580
第9期 特定期間 (2017年1月20日現在)	560	604	0.5426	0.5836
第10期 特定期間 (2017年7月20日現在)	540	576	0.5208	0.5568
第11期 特定期間 (2018年1月22日現在)	474	510	0.4740	0.5100
第12期 特定期間 (2018年7月20日現在)	421	455	0.4493	0.4853
第13期 特定期間 (2019年1月21日現在)	321	349	0.4086	0.4406
第14期 特定期間 (2019年7月22日現在)	395	416	0.4018	0.4258
第15期 特定期間 (2020年1月20日現在)	707	742	0.4059	0.4299
第16期 特定期間 (2020年7月20日現在)	526	569	0.2917	0.3157
第17期 特定期間 (2021年1月20日現在)	412	449	0.3030	0.3250
第18期 特定期間 (2021年7月20日現在)	360	382	0.3179	0.3359
第19期 特定期間 (2022年1月20日現在)	305	324	0.3051	0.3231
第20期 特定期間 (2022年7月20日現在)	242	259	0.2601	0.2781
第21期 特定期間 (2023年1月20日現在)	215	230	0.2268	0.2418
2022年2月末日	289	—	0.2929	—
2022年3月末日	292	—	0.3052	—
2022年4月末日	286	—	0.2990	—
2022年5月末日	259	—	0.2768	—
2022年6月末日	237	—	0.2556	—

2022年7月末日	268	—	0.2689	—
2022年8月末日	253	—	0.2545	—
2022年9月末日	217	—	0.2182	—
2022年10月末日	223	—	0.2235	—
2022年11月末日	225	—	0.2271	—
2022年12月末日	209	—	0.2208	—
2023年1月末日	220	—	0.2314	—
2023年2月末日	251	—	0.2183	—

(注) 分配付の金額は、特定期間末の金額に当該特定期間中の分配金累計額を加算した金額です。

②【分配の推移】

	1口当たりの分配金（円）
第2期 特定期間（2013年1月22日 ～ 2013年7月22日）	0.0600
第3期 特定期間（2013年7月23日 ～ 2014年1月20日）	0.0600
第4期 特定期間（2014年1月21日 ～ 2014年7月22日）	0.0600
第5期 特定期間（2014年7月23日 ～ 2015年1月20日）	0.0600
第6期 特定期間（2015年1月21日 ～ 2015年7月21日）	0.0600
第7期 特定期間（2015年7月22日 ～ 2016年1月20日）	0.0540
第8期 特定期間（2016年1月21日 ～ 2016年7月20日）	0.0420
第9期 特定期間（2016年7月21日 ～ 2017年1月20日）	0.0410
第10期 特定期間（2017年1月21日 ～ 2017年7月20日）	0.0360
第11期 特定期間（2017年7月21日 ～ 2018年1月22日）	0.0360
第12期 特定期間（2018年1月23日 ～ 2018年7月20日）	0.0360
第13期 特定期間（2018年7月21日 ～ 2019年1月21日）	0.0320
第14期 特定期間（2019年1月22日 ～ 2019年7月22日）	0.0240
第15期 特定期間（2019年7月23日 ～ 2020年1月20日）	0.0240
第16期 特定期間（2020年1月21日 ～ 2020年7月20日）	0.0240
第17期 特定期間（2020年7月21日 ～ 2021年1月20日）	0.0220
第18期 特定期間（2021年1月21日 ～ 2021年7月20日）	0.0180
第19期 特定期間（2021年7月21日 ～ 2022年1月20日）	0.0180
第20期 特定期間（2022年1月21日 ～ 2022年7月20日）	0.0180
第21期 特定期間（2022年7月21日 ～ 2023年1月20日）	0.0150

③【収益率の推移】

	収益率（％）
第2期 特定期間（2013年1月22日 ～ 2013年7月22日）	△0.11
第3期 特定期間（2013年7月23日 ～ 2014年1月20日）	△5.85
第4期 特定期間（2014年1月21日 ～ 2014年7月22日）	6.81
第5期 特定期間（2014年7月23日 ～ 2015年1月20日）	3.50
第6期 特定期間（2015年1月21日 ～ 2015年7月21日）	△4.05
第7期 特定期間（2015年7月22日 ～ 2016年1月20日）	△3.13
第8期 特定期間（2016年1月21日 ～ 2016年7月20日）	10.48
第9期 特定期間（2016年7月21日 ～ 2017年1月20日）	△5.26
第10期 特定期間（2017年1月21日 ～ 2017年7月20日）	2.62
第11期 特定期間（2017年7月21日 ～ 2018年1月22日）	△2.07

第12期 特定期間（2018年1月23日 ～ 2018年7月20日）	2.38
第13期 特定期間（2018年7月21日 ～ 2019年1月21日）	△1.94
第14期 特定期間（2019年1月22日 ～ 2019年7月22日）	4.21
第15期 特定期間（2019年7月23日 ～ 2020年1月20日）	6.99
第16期 特定期間（2020年1月21日 ～ 2020年7月20日）	△22.22
第17期 特定期間（2020年7月21日 ～ 2021年1月20日）	11.42
第18期 特定期間（2021年1月21日 ～ 2021年7月20日）	10.86
第19期 特定期間（2021年7月21日 ～ 2022年1月20日）	1.64
第20期 特定期間（2022年1月21日 ～ 2022年7月20日）	△8.85
第21期 特定期間（2022年7月21日 ～ 2023年1月20日）	△7.04

（注）収益率とは、特定期間末の基準価額（分配付の額）から当該特定期間の直前の特定期間末の基準価額（分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た額に100を乗じて得た数字です。（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

（４）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数
第2期 特定期間（2013年1月22日 ～ 2013年7月22日）	3,187,959,558	10,307,235,555
第3期 特定期間（2013年7月23日 ～ 2014年1月20日）	194,873,585	3,872,282,926
第4期 特定期間（2014年1月21日 ～ 2014年7月22日）	179,845,364	2,220,708,458
第5期 特定期間（2014年7月23日 ～ 2015年1月20日）	135,720,014	651,049,029
第6期 特定期間（2015年1月21日 ～ 2015年7月21日）	49,739,563	487,071,625
第7期 特定期間（2015年7月22日 ～ 2016年1月20日）	12,489,701	334,387,916
第8期 特定期間（2016年1月21日 ～ 2016年7月20日）	4,145,849	258,596,215
第9期 特定期間（2016年7月21日 ～ 2017年1月20日）	100,960,275	180,133,604
第10期 特定期間（2017年1月21日 ～ 2017年7月20日）	67,871,604	63,225,042
第11期 特定期間（2017年7月21日 ～ 2018年1月22日）	8,778,680	45,348,233
第12期 特定期間（2018年1月23日 ～ 2018年7月20日）	3,796,276	67,202,243
第13期 特定期間（2018年7月21日 ～ 2019年1月21日）	47,691,086	198,175,818
第14期 特定期間（2019年1月22日 ～ 2019年7月22日）	344,034,133	146,614,659
第15期 特定期間（2019年7月23日 ～ 2020年1月20日）	981,690,164	222,230,823
第16期 特定期間（2020年1月21日 ～ 2020年7月20日）	136,944,051	75,370,398
第17期 特定期間（2020年7月21日 ～ 2021年1月20日）	45,298,213	490,292,641
第18期 特定期間（2021年1月21日 ～ 2021年7月20日）	6,730,384	233,179,015
第19期 特定期間（2021年7月21日 ～ 2022年1月20日）	5,464,536	137,817,941
第20期 特定期間（2022年1月21日 ～ 2022年7月20日）	12,189,541	83,245,481
第21期 特定期間（2022年7月21日 ～ 2023年1月20日）	104,163,957	84,912,765

（注）設定口数および解約口数は、全て本邦内におけるものです。

【米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）通貨プレミアム・コース】

（１）【投資状況】

資産の種類別、地域別の投資状況

（2023年2月28日現在）

資産の種類	国／地域	時価合計（百万円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	ケイマン諸島	3,923	97.68
親投資信託受益証券	日本	20	0.50
現金・預金・その他の資産 （負債差引後）	日本	73	1.82
合計（純資産総額）	—	4,016	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

（２）【投資資産】

①【投資有価証券の主要銘柄】

a. 評価額上位銘柄（全銘柄）

（2023年2月28日現在）

	国／ 地域	種 類	銘 柄 名	券面総額	簿価単価（円） 簿価金額（円）	時価単価（円） 時価金額（円）	投資 比率 （％）
1	ケイマン 諸島	投資信託 受益証券	クレディ・スイス・ ユニバーサル・トラ スト（ケイマン）II- USリート・プレミア ムファンド（通貨プ レミアム・クラス）	2,629,543.91	1,537.68 4,043,397,079	1,491.84 3,922,858,786	97.68
2	日本	親投資信託 受益証券	T & Dマネープール マザーファンド	19,809,785	1.0139 20,085,141	1.0139 20,085,141	0.50

（注）1 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各銘柄の評価額比率です。

2 投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

b. 投資有価証券の種類別比率

（2023年2月28日現在）

種類	投 資 比 率（％）
投資信託受益証券	97.68
親投資信託受益証券	0.50
合計	98.18

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各種類の評価額比率です。

②【投資不動産物件】

該当事項はありません。

③【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（３）【運用実績】

①【純資産の推移】

2023年2月末日及び同日前1年以内における各月末及び各特定期間末日の純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額 (分配落) (単位:百万円)	純資産総額 (分配付) (単位:百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落) (単位:円)	1口当たりの 純資産額 (分配付) (単位:円)
第2期 特定期間 (2013年7月22日現在)	65,748	72,515	0.9996	1.0896
第3期 特定期間 (2014年1月20日現在)	72,824	79,905	0.8847	0.9747
第4期 特定期間 (2014年7月22日現在)	58,852	65,612	0.8503	0.9403
第5期 特定期間 (2015年1月20日現在)	33,961	38,873	0.8222	0.9122
第6期 特定期間 (2015年7月21日現在)	16,814	19,380	0.7378	0.8278
第7期 特定期間 (2016年1月20日現在)	9,774	11,283	0.6132	0.6932
第8期 特定期間 (2016年7月20日現在)	7,716	8,563	0.5718	0.6318
第9期 特定期間 (2017年1月20日現在)	6,557	7,321	0.5003	0.5583
第10期 特定期間 (2017年7月20日現在)	5,728	6,332	0.4634	0.5114
第11期 特定期間 (2018年1月22日現在)	4,916	5,502	0.4142	0.4622
第12期 特定期間 (2018年7月20日現在)	4,236	4,781	0.3801	0.4281
第13期 特定期間 (2019年1月21日現在)	3,630	4,093	0.3320	0.3740
第14期 特定期間 (2019年7月22日現在)	4,229	4,579	0.3170	0.3470
第15期 特定期間 (2020年1月20日現在)	13,685	14,525	0.3207	0.3507
第16期 特定期間 (2020年7月20日現在)	12,621	14,255	0.2193	0.2493
第17期 特定期間 (2021年1月20日現在)	10,930	12,428	0.2159	0.2429
第18期 特定期間 (2021年7月20日現在)	7,934	8,836	0.2223	0.2433
第19期 特定期間 (2022年1月20日現在)	5,810	6,457	0.2104	0.2314
第20期 特定期間 (2022年7月20日現在)	5,192	5,744	0.1899	0.2109
第21期 特定期間 (2023年1月20日現在)	4,097	4,596	0.1511	0.1691
2022年2月末日	5,391	—	0.2029	—
2022年3月末日	5,488	—	0.2130	—
2022年4月末日	5,261	—	0.2101	—
2022年5月末日	4,890	—	0.1917	—
2022年6月末日	4,996	—	0.1854	—
2022年7月末日	5,324	—	0.1926	—

2022年8月末日	5,133	—	0.1856	—
2022年9月末日	4,587	—	0.1623	—
2022年10月末日	4,736	—	0.1685	—
2022年11月末日	4,576	—	0.1620	—
2022年12月末日	4,147	—	0.1524	—
2023年1月末日	4,232	—	0.1565	—
2023年2月末日	4,016	—	0.1508	—

（注）分配付の金額は、特定期間末の金額に当該特定期間中の分配金累計額を加算した金額です。

②【分配の推移】

	1口当たりの分配金（円）
第2期 特定期間（2013年1月22日 ～ 2013年7月22日）	0.0900
第3期 特定期間（2013年7月23日 ～ 2014年1月20日）	0.0900
第4期 特定期間（2014年1月21日 ～ 2014年7月22日）	0.0900
第5期 特定期間（2014年7月23日 ～ 2015年1月20日）	0.0900
第6期 特定期間（2015年1月21日 ～ 2015年7月21日）	0.0900
第7期 特定期間（2015年7月22日 ～ 2016年1月20日）	0.0800
第8期 特定期間（2016年1月21日 ～ 2016年7月20日）	0.0600
第9期 特定期間（2016年7月21日 ～ 2017年1月20日）	0.0580
第10期 特定期間（2017年1月21日 ～ 2017年7月20日）	0.0480
第11期 特定期間（2017年7月21日 ～ 2018年1月22日）	0.0480
第12期 特定期間（2018年1月23日 ～ 2018年7月20日）	0.0480
第13期 特定期間（2018年7月21日 ～ 2019年1月21日）	0.0420
第14期 特定期間（2019年1月22日 ～ 2019年7月22日）	0.0300
第15期 特定期間（2019年7月23日 ～ 2020年1月20日）	0.0300
第16期 特定期間（2020年1月21日 ～ 2020年7月20日）	0.0300
第17期 特定期間（2020年7月21日 ～ 2021年1月20日）	0.0270
第18期 特定期間（2021年1月21日 ～ 2021年7月20日）	0.0210
第19期 特定期間（2021年7月21日 ～ 2022年1月20日）	0.0210
第20期 特定期間（2022年1月21日 ～ 2022年7月20日）	0.0210
第21期 特定期間（2022年7月21日 ～ 2023年1月20日）	0.0180

③【収益率の推移】

	収益率（％）
第2期 特定期間（2013年1月22日 ～ 2013年7月22日）	8.16
第3期 特定期間（2013年7月23日 ～ 2014年1月20日）	△2.49
第4期 特定期間（2014年1月21日 ～ 2014年7月22日）	6.28
第5期 特定期間（2014年7月23日 ～ 2015年1月20日）	7.28
第6期 特定期間（2015年1月21日 ～ 2015年7月21日）	0.68
第7期 特定期間（2015年7月22日 ～ 2016年1月20日）	△6.04
第8期 特定期間（2016年1月21日 ～ 2016年7月20日）	3.03
第9期 特定期間（2016年7月21日 ～ 2017年1月20日）	△2.36
第10期 特定期間（2017年1月21日 ～ 2017年7月20日）	2.22
第11期 特定期間（2017年7月21日 ～ 2018年1月22日）	△0.26

第12期 特定期間（2018年1月23日 ～ 2018年7月20日）	3.36
第13期 特定期間（2018年7月21日 ～ 2019年1月21日）	△1.60
第14期 特定期間（2019年1月22日 ～ 2019年7月22日）	4.52
第15期 特定期間（2019年7月23日 ～ 2020年1月20日）	10.63
第16期 特定期間（2020年1月21日 ～ 2020年7月20日）	△22.26
第17期 特定期間（2020年7月21日 ～ 2021年1月20日）	10.76
第18期 特定期間（2021年1月21日 ～ 2021年7月20日）	12.69
第19期 特定期間（2021年7月21日 ～ 2022年1月20日）	4.09
第20期 特定期間（2022年1月21日 ～ 2022年7月20日）	0.24
第21期 特定期間（2022年7月21日 ～ 2023年1月20日）	△10.95

（注）収益率とは、特定期間末の基準価額（分配付の額）から当該特定期間の直前の特定期間末の基準価額（分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た額に100を乗じて得た数字です。（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

（４）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数
第2期 特定期間（2013年1月22日 ～ 2013年7月22日）	38,677,202,394	94,112,784,444
第3期 特定期間（2013年7月23日 ～ 2014年1月20日）	32,872,074,768	16,335,058,714
第4期 特定期間（2014年1月21日 ～ 2014年7月22日）	24,244,118,500	37,343,328,813
第5期 特定期間（2014年7月23日 ～ 2015年1月20日）	5,339,114,222	33,248,877,570
第6期 特定期間（2015年1月21日 ～ 2015年7月21日）	877,450,040	19,394,090,005
第7期 特定期間（2015年7月22日 ～ 2016年1月20日）	444,638,930	7,292,855,635
第8期 特定期間（2016年1月21日 ～ 2016年7月20日）	336,165,367	2,781,000,525
第9期 特定期間（2016年7月21日 ～ 2017年1月20日）	1,171,100,190	1,559,244,499
第10期 特定期間（2017年1月21日 ～ 2017年7月20日）	905,783,236	1,653,047,768
第11期 特定期間（2017年7月21日 ～ 2018年1月22日）	796,860,009	1,287,229,669
第12期 特定期間（2018年1月23日 ～ 2018年7月20日）	566,793,191	1,291,747,558
第13期 特定期間（2018年7月21日 ～ 2019年1月21日）	1,585,441,717	1,795,337,487
第14期 特定期間（2019年1月22日 ～ 2019年7月22日）	4,181,513,368	1,777,363,532
第15期 特定期間（2019年7月23日 ～ 2020年1月20日）	31,759,266,721	2,430,634,470
第16期 特定期間（2020年1月21日 ～ 2020年7月20日）	17,085,842,756	2,192,613,652
第17期 特定期間（2020年7月21日 ～ 2021年1月20日）	1,835,035,365	8,776,254,212
第18期 特定期間（2021年1月21日 ～ 2021年7月20日）	2,746,338,692	17,675,028,318
第19期 特定期間（2021年7月21日 ～ 2022年1月20日）	969,444,885	9,049,384,540
第20期 特定期間（2022年1月21日 ～ 2022年7月20日）	4,948,468,453	5,211,312,155
第21期 特定期間（2022年7月21日 ～ 2023年1月20日）	4,733,702,510	4,957,893,287

（注）設定口数および解約口数は、全て本邦内におけるものです。

【米国リート・プレミアムファンド（年2回決算型）マネープール・コース】

（１）【投資状況】

資産の種類別、地域別の投資状況

（2023年2月28日現在）

資産の種類	国名	時価合計（千円）	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	90	89.97
現金・預金・その他の資産（負債差引後）	日本	10	10.03
合計（純資産総額）	—	100	100.00

（注）1 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

2 当ファンドの時価合計は千円単位で記載しております。

（２）【投資資産】

①【投資有価証券の主要銘柄】

a. 評価額上位銘柄（全銘柄）

（2023年2月28日現在）

国名	種 類	銘 柄 名	数 量 （口）	簿価単価（円） 簿価金額（円）	時価単価（円） 時価金額（円）	投資比率 （％）
日本	親投資信託 受益証券	T & Dマネープール マザーファンド	88,475	1.0140 89,713	1.0139 89,704	89.97

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各銘柄の評価額比率です。

b. 投資有価証券の種類別比率

（2023年2月28日現在）

種類	投 資 比 率（％）
親投資信託受益証券	89.97
合計	89.97

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各種類の評価額比率です。

②【投資不動産物件】

該当事項はありません。

③【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（３）【運用実績】

①【純資産の推移】

2023年2月末日及び同日前1年以内における各月末及び各計算期間末日の純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額 （分配落） （単位：千円）	純資産総額 （分配付） （単位：千円）	1口当たりの 純資産額 （分配落） （単位：円）	1口当たりの 純資産額 （分配付） （単位：円）
第1期 計算期間 （2013年7月22日現在）	100	100	1.0004	1.0004
第2期 計算期間 （2014年1月20日現在）	100	100	1.0007	1.0007
第3期 計算期間 （2014年7月22日現在）	100	100	1.0009	1.0009
第4期 計算期間 （2015年1月20日現在）	100	100	1.0009	1.0009

第5期 計算期間 (2015年7月21日現在)	100	100	1.0010	1.0010
第6期 計算期間 (2016年1月20日現在)	100	100	1.0009	1.0009
第7期 計算期間 (2016年7月20日現在)	100	100	1.0009	1.0009
第8期 計算期間 (2017年1月20日現在)	100	100	1.0005	1.0005
第9期 計算期間 (2017年7月20日現在)	100	100	1.0002	1.0002
第10期 計算期間 (2018年1月22日現在)	100	100	0.9999	0.9999
第11期 計算期間 (2018年7月20日現在)	100	100	0.9996	0.9996
第12期 計算期間 (2019年1月21日現在)	100	100	0.9993	0.9993
第13期 計算期間 (2019年7月22日現在)	100	100	0.9989	0.9989
第14期 計算期間 (2020年1月20日現在)	100	100	0.9986	0.9986
第15期 計算期間 (2020年7月20日現在)	100	100	0.9983	0.9983
第16期 計算期間 (2021年1月20日現在)	100	100	0.9980	0.9980
第17期 計算期間 (2021年7月20日現在)	100	100	0.9978	0.9978
第18期 計算期間 (2022年1月20日現在)	100	100	0.9976	0.9976
2022年2月末日	100	—	0.9975	—
2022年3月末日	100	—	0.9975	—
2022年4月末日	100	—	0.9975	—
2022年5月末日	100	—	0.9974	—
2022年6月末日	100	—	0.9974	—
第19期 計算期間 (2022年7月20日現在)	100	100	0.9974	0.9974
2022年7月末日	100	—	0.9973	—
2022年8月末日	100	—	0.9973	—
2022年9月末日	100	—	0.9973	—
2022年10月末日	100	—	0.9972	—
2022年11月末日	100	—	0.9971	—
2022年12月末日	100	—	0.9971	—
第20期 計算期間 (2023年1月20日現在)	100	100	0.9971	0.9971
2023年1月末日	100	—	0.9970	—
2023年2月末日	100	—	0.9970	—

（注）当ファンドの各月末及び各計算期間末日の純資産総額は千円単位で記載しております。

②【分配の推移】

	1口当たりの分配金（円）
--	--------------

第1期 計算期間（2013年7月22日）	0.0000
第2期 計算期間（2014年1月20日）	0.0000
第3期 計算期間（2014年7月22日）	0.0000
第4期 計算期間（2015年1月20日）	0.0000
第5期 計算期間（2015年7月21日）	0.0000
第6期 計算期間（2016年1月20日）	0.0000
第7期 計算期間（2016年7月20日）	0.0000
第8期 計算期間（2017年1月20日）	0.0000
第9期 計算期間（2017年7月20日）	0.0000
第10期 計算期間（2018年1月22日）	0.0000
第11期 計算期間（2018年7月20日）	0.0000
第12期 計算期間（2019年1月21日）	0.0000
第13期 計算期間（2019年7月22日）	0.0000
第14期 計算期間（2020年1月20日）	0.0000
第15期 計算期間（2020年7月20日）	0.0000
第16期 計算期間（2021年1月20日）	0.0000
第17期 計算期間（2021年7月20日）	0.0000
第18期 計算期間（2022年1月20日）	0.0000
第19期 計算期間（2022年7月20日）	0.0000
第20期 計算期間（2023年1月20日）	0.0000

③【収益率の推移】

	収益率（%）
第1期 計算期間（2012年12月20日 ～ 2013年7月22日）	0.04
第2期 計算期間（2013年7月23日 ～ 2014年1月20日）	0.03
第3期 計算期間（2014年1月21日 ～ 2014年7月22日）	0.02
第4期 計算期間（2014年7月23日 ～ 2015年1月20日）	0.00
第5期 計算期間（2015年1月21日 ～ 2015年7月21日）	0.01
第6期 計算期間（2015年7月22日 ～ 2016年1月20日）	△0.01
第7期 計算期間（2016年1月21日 ～ 2016年7月20日）	0.00
第8期 計算期間（2016年7月21日 ～ 2017年1月20日）	△0.04
第9期 計算期間（2017年1月21日 ～ 2017年7月20日）	△0.03
第10期 計算期間（2017年7月21日 ～ 2018年1月22日）	△0.03
第11期 計算期間（2018年1月23日 ～ 2018年7月20日）	△0.03
第12期 計算期間（2018年7月21日 ～ 2019年1月21日）	△0.03
第13期 計算期間（2019年1月22日 ～ 2019年7月22日）	△0.04
第14期 計算期間（2019年7月23日 ～ 2020年1月20日）	△0.03
第15期 計算期間（2020年1月21日 ～ 2020年7月20日）	△0.03
第16期 計算期間（2020年7月21日 ～ 2021年1月20日）	△0.03
第17期 計算期間（2021年1月21日 ～ 2021年7月20日）	△0.02
第18期 計算期間（2021年7月21日 ～ 2022年1月20日）	△0.02
第19期 計算期間（2022年1月21日 ～ 2022年7月20日）	△0.02
第20期 計算期間（2022年7月21日 ～ 2023年1月20日）	△0.03

（注）収益率とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た額に100を乗じて得た数字です。なお、第1期計算期間においては、前期末基準価額（1万口当たり）を1万円として計算しています。（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

（４）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数
第1期 計算期間（2012年12月20日 ～ 2013年7月22日）	100,000	—
第2期 計算期間（2013年7月23日 ～ 2014年1月20日）	—	—
第3期 計算期間（2014年1月21日 ～ 2014年7月22日）	—	—
第4期 計算期間（2014年7月23日 ～ 2015年1月20日）	—	—
第5期 計算期間（2015年1月21日 ～ 2015年7月21日）	—	—
第6期 計算期間（2015年7月22日 ～ 2016年1月20日）	—	—
第7期 計算期間（2016年1月21日 ～ 2016年7月20日）	—	—
第8期 計算期間（2016年7月21日 ～ 2017年1月20日）	—	—
第9期 計算期間（2017年1月21日 ～ 2017年7月20日）	—	—
第10期 計算期間（2017年7月21日 ～ 2018年1月22日）	—	—
第11期 計算期間（2018年1月23日 ～ 2018年7月20日）	—	—
第12期 計算期間（2018年7月21日 ～ 2019年1月21日）	—	—
第13期 計算期間（2019年1月22日 ～ 2019年7月22日）	—	—
第14期 計算期間（2019年7月23日 ～ 2020年1月20日）	—	—
第15期 計算期間（2020年1月21日 ～ 2020年7月20日）	—	—
第16期 計算期間（2020年7月21日 ～ 2021年1月20日）	—	—
第17期 計算期間（2021年1月21日 ～ 2021年7月20日）	—	—
第18期 計算期間（2021年7月21日 ～ 2022年1月20日）	—	—
第19期 計算期間（2022年1月21日 ～ 2022年7月20日）	—	—
第20期 計算期間（2022年7月21日 ～ 2023年1月20日）	—	—

（注）1 第1期計算期間の設定口数には、当初申込期間がある場合の当該設定口数を含みます。

2 設定口数および解約口数は、全て本邦内におけるものです。

（参考）T & Dマネープールマザーファンドの状況

（１）投資状況

親投資信託資産の種類別、地域別の投資状況

（2023年2月28日現在）

資産の種類	国名	時価合計（百万円）	投資比率（％）
現金・預金・その他の資産 （負債差引後）	日本	338	100.00
合計（純資産総額）	—	338	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（小数点以下第3位を四捨五入して算出しております。）

（２）投資資産

①投資有価証券の主要銘柄

該当事項はありません。

②投資不動産物件

該当事項はありません。

③その他投資資産の主要なもの

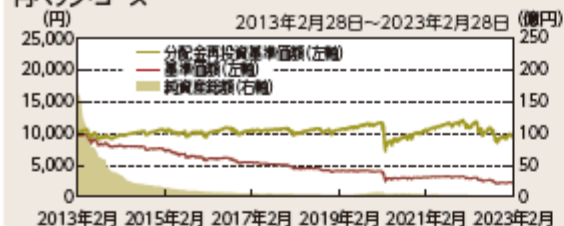
該当事項はありません。

(参考) 運用実績

(2023年2月28日現在)

基準価額・純資産の推移

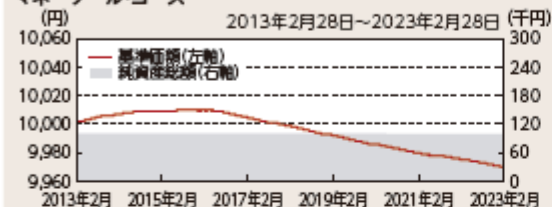
円ヘッジ・コース



通貨プレミアム・コース



マネーパール・コース



※分配金再投資基準価額は収益分配金(税引前)を再投資したものとみなして計算したものです。
※基準価額および分配金再投資基準価額は信託報酬控除後の値です。

分配の推移(1万口当たり、税引前)

円ヘッジ・コース	通貨プレミアム・コース	マネーパール・コース
2023年 2月 20円	2023年 2月 25円	2023年1月 0円
2023年 1月 20円	2023年 1月 25円	2022年7月 0円
2022年12月 20円	2022年12月 25円	2022年1月 0円
2022年11月 20円	2022年11月 25円	2021年7月 0円
2022年10月 30円	2022年10月 35円	2021年1月 0円
直近1年間累計 320円	直近1年間累計 380円	設定来累計 0円
設定来累計 7,820円	設定来累計 10,945円	

主要な資産の状況

< 投資比率 >

円ヘッジ・コース

フレディ・スミス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)II-USリート・プレミアムファンド(円ヘッジ・クラス)	97.8%
T&Dマネーパールマザーファンド	0.7%
現金・預金等	1.5%
合 計	100.0%

通貨プレミアム・コース

フレディ・スミス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)II-USリート・プレミアムファンド(通貨プレミアム・クラス)	97.7%
T&Dマネーパールマザーファンド	0.5%
現金・預金等	1.8%
合 計	100.0%

マネーパール・コース

T&Dマネーパールマザーファンド	90.0%
現金・預金等	10.0%
合 計	100.0%

フレディ・スミス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)II-USリート・プレミアムファンドの運用状況 2023年2月末現在(現地基準)

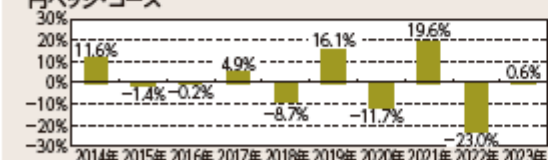
銘柄名	比率
iシェアーズ 米国不動産ETF	100.0%

※比率は、「フレディ・スミス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)II-USリート・プレミアムファンド」におけるリートポートフォリオに対する比率です。
上記のデータは、ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン(シンガポール支店)より入手したデータをもとに作成しております。

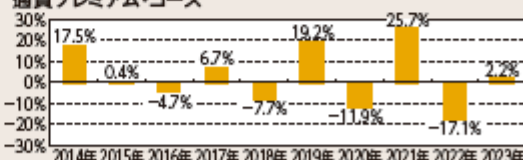
※比率は、表示桁数未満を四捨五入しているため、合計の数値が必ずしも100とはなりません。

年間収益率の推移(暦年ベース)

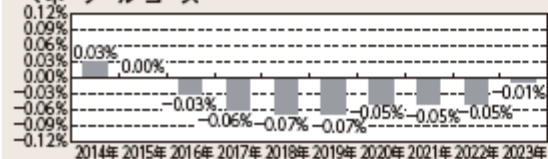
円ヘッジ・コース



通貨プレミアム・コース



マネーパール・コース



※ファンドの収益率は分配金再投資基準価額をもとに計算したものです。
※ファンドにはベンチマークはありません。
※2023年は年初から2月末までの収益率を表示しています。

- ◆運用実績は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。
- ◆最新の運用状況は委託会社のホームページでご覧いただけます。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

- ①ファンドの受益権の購入申込は、販売会社において取引口座を開設のうえ行うものとします。
購入申込は、申込期間における毎営業日に販売会社で受付けます。ただし、継続申込期間において、下記のいずれかに該当する日には、購入およびスイッチングの申込を受付けないものとします。申込不可日につきましては、販売会社にお問い合わせください。
＜申込不可日（マネープール・コースを除く）＞
 - ・ニューヨーク証券取引所の休業日
- ②購入申込の受付は、原則として営業日の午後3時までとし、当該受付時間を過ぎた場合は翌営業日の受付となります。ただし、販売会社により受付時間が変更になることもありますのでご注意ください。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- ③申込方法には、一般コースと自動継続投資コースがあります。自動継続投資コースを選択された場合には、販売会社との間で「自動継続投資契約^{*}」を締結していただきます。
＊これと異なる名称で同一の権利義務関係を規定した契約を含むものとします。
- ④受益権の購入価額（発行価格）は、購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。購入価額に申込口数を乗じて得た金額が申込金額となります。
- ⑤ファンドの購入申込者は販売会社に、購入申込と同時にまたはあらかじめ、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該購入申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該購入申込の代金の支払と引き換えに、当該口座に当該購入申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。
- ⑥申込手数料につきましては、前述「第1 ファンドの状況 4 手数料等及び税金 （1）申込手数料」をご参照ください。
- ⑦購入申込者は、購入代金を払込期日までに申込いただきます販売会社に支払うものとします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- ⑧委託会社は、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、購入申込およびスイッチングの受付を中止することおよびすでに受付けた申込の受付を取消することがあります。
- ⑨マネープール・コースの購入申込は、スイッチングによる場合に限りします。

2【換金（解約）手続等】

- ①受益者は、販売会社が定める単位をもって、換金申込を行うことができます。ただし、申込不可日のいずれかに該当する日には、換金申込を受付けないものとします。申込不可日につきましては、前述「1 申込（販売）手続等」をご参照ください。
換金申込の受付は、原則として営業日の午後3時までとし、当該受付時間を過ぎた場合は翌営業日の受付となります。ただし、販売会社により受付時間が変更になることもありますのでご注意ください。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- ②委託会社は、換金申込を受付けた場合には、この信託契約の一部を解約します。

- ③ファンドの換金申込を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。
- ④毎月分配型の換金価額（解約価額）は、換金申込受付日の翌営業日の基準価額から、当該基準価額に0.3%の率を乗じて得た額を信託財産留保額^{*}として控除した価額とします。
- マネープール・コースの換金価額（解約価額）は、換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
- ＊「信託財産留保額」とは、運用の安定性を高めるとともに、継続保有される投資者との公平性を確保するため、換金する投資者が負担する一定の金額をいい、信託財産に繰り入れられます。
- ⑤換金申込は、振替受益権をもって行うものとします。
- ⑥委託会社は、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、換金申込の受付を中止することおよびすでに受付けた換金申込の受付を取消することができます。なお、換金申込の受付が中止された場合には、受益者は当該受付の中止以前に行った当日の換金申込を撤回できます。ただし、受益者がその換金申込を撤回しない場合には、当該受益権の換金価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日（この計算日が申込不可日であるときは、この計算日以降の最初の換金申込を受付けることができる日とします。）に、換金申込を受付けたものとして④の規定に準じて計算された価額とします。
- ⑦換金代金は、換金申込受付日から起算して、原則として6営業日目から販売会社において支払います。ただし、金融商品取引所における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、上記原則による支払開始日が遅延する場合があります。
- ⑧信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金申込等に制限を設ける場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- ⑨換金価額につきましては、委託会社または販売会社にお問い合わせください。

3【資産管理等の概要】

（1）【資産の評価】

基準価額とは、信託財産の純資産総額を計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。

ファンドおよびマザーファンドの主な投資対象の評価方法は以下の通りです。

①ファンドの主な投資対象

- ・外国投資信託：原則としてファンドの基準価額計算日に知りうる直近の日の基準価額で評価します。
- ・マザーファンド：原則としてファンドの基準価額計算日の基準価額で評価します。

②マザーファンドの主な投資対象

- ・公社債等：a. 日本証券業協会が発表する売買参考統計値（平均値）
b. 金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（売気配相場を除く。）
c. 価格情報会社の提供する価額

※残存期間1年以内の公社債等については、一部償却原価法により評価をすることができます。

基準価額は毎営業日算出され、販売会社にお問い合わせいただければ、お知らせいたします。また、基準価額は原則として翌日の日本経済新聞朝刊に掲載されます。

基準価額につきましては、下記においてもご照会いただけます。

T & Dアセットマネジメント株式会社

電話番号 03-6722-4810（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

インターネットホームページ <https://www.tdasset.co.jp/>

（2）【保管】

ありません。

（3）【信託期間】

ファンドの信託期間は、2025年4月21日までですが、後述「（5）その他 ①信託の終了」の規定により信託を終了させる場合があります。また、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認められる場合には、受託会社と協議のうえ、信託期間を延長することがあります。

（4）【計算期間】

「毎月分配型」

ファンドの計算期間は、毎月21日から翌月20日までです。該当日が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌日以降の最初の営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

なお、最終計算期間の終了日は信託期間の終了日とします。

「マネープール・コース」

ファンドの計算期間は、毎年1月21日から7月20日まで、7月21日から翌年1月20日までです。該当日が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌日以降の最初の営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。なお、最終計算期間の終了日は信託期間の終了日とします。

（5）【その他】

①信託の終了

a. ファンドの繰上償還

(1) 「毎月分配型」

委託会社は、信託期間中において、この信託契約の換金申込により受益権の総口数が10億口を下回ることとなったとき、信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めたとき、その他やむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

「マネープール・コース」

委託会社は、信託期間中において、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めたとき、その他やむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

- (2)委託会社は、この投資信託が下記に該当する場合は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

「毎月分配型」

各ファンドが主要投資対象とする外国投資信託が存続しないこととなる場合

「マネープール・コース」

毎月分配型のファンドがすべてその信託を終了させることとなる場合

- (3)委託会社は、(1)の事項について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託契約に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
- (4)(3)の書面決議において、受益者（委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託会社を除きます。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- (5)(3)の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- (6)(3)から(5)までの規定は、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約に係るすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときおよび(2)の規定に基づいてこの信託契約を解約する場合には適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、(3)から(5)までの手続きを行うことが困難な場合も適用しません。
- b. 委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。
- c. 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。なお、監督官庁が、この信託契約に関する委託会社の業務を他の委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、後述「②信託約款の変更」の書面決議で否決された場合を除き、当該委託会社と受託会社との間において存続します。
- d. 受託会社が辞任する場合または受託会社を解任する場合、委託会社は、後述「②信託約款の変更」の規定にしたがい、新受託会社を選任します。委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

②信託約款の変更

- a. 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。）を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、この信託約款は②に定める以外の方法によって変更することができないものとします。
- b. 委託会社は、aの事項（aの変更事項にあっては、その変更の内容が重大なものに該当する場合に限り、併合事項にあってはその併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除き、以下、合わせて「重大な約款の変更等」といいます。）について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託約款に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
- c. bの書面決議において、受益者（委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託会社を除きます。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、

これを行行使うことができます。なお、知っている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知っている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

- d. bの書面決議は議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- e. 書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。
- f. bからeまでの規定は、委託会社が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この信託約款に係るすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。
- g. aからfの規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあっては、当該併合に係る一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

③関係法人との契約の更改に関する手続

委託会社が販売会社と締結している「投資信託受益権の取扱に関する契約」は、契約満了日の3ヵ月前までに当事者から別段の意思表示のない限り、1年毎に自動更新されます。

④公告

委託会社が投資者に対してする公告は、原則として電子公告により行い、委託会社のホームページ（<https://www.tdasset.co.jp/>）に掲載します。ただし、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

⑤運用に係る報告等開示方法

1月および7月の決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知っている受益者に交付します。運用報告書（全体版）は、委託会社のホームページにおいて開示します。ただし、受益者から運用報告書（全体版）の交付の請求があった場合には、これを交付します。

4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は以下の通りです。なお、受益者は、自己に帰属する受益権の口数に応じて、均等にファンドの受益権を保有します。

（1）収益分配金の請求権

受益者は、ファンドの収益分配金を自己に帰属する受益権の口数に応じて受領する権利を有します。

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金に係る決算日以前において換金が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る計算期間の末日以前に設定された受益権で購入代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として購入申込者としします。）に、原則として決算日から起算して5営業日目までに支払を開始します。収益分配金の支払は、販売会社の営業所等にて行うものとしします。ただし、受益者が、収益分配金について支払開始日から5年間その支払を請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

上記に関わらず自動継続投資コースを選択した受益者に対しては、分配金は税引後無手数料で再投資されます。再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

（2）償還金の請求権

受益者は、ファンドの償還金を自己に帰属する受益権の口数に応じて受領する権利を有します。

償還金は、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（信託終了日以前において換金が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で購入代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については、原則として購入申込者としします。）に支払います。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して委託会社がこの信託の償還をするのと引き換えに、当該償還に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

償還金は、原則として信託終了日から起算して5営業日目までに支払を開始します。償還金の支払は、販売会社の営業所等において行います。ただし、受益者が償還金について支払開始日から10年間その支払を請求しないときはその権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

（3）換金（解約）請求権

受益者は、受益権の換金を販売会社を通じて委託会社に請求できます。権利行使の方法等については、前述「2 換金（解約）手続等」をご参照ください。

（4）帳簿閲覧権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内にファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧または謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）円ヘッジ・コース
米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）通貨プレミアム・コース

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）（以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）（以下「投資信託財産計算規則」という。）に基づいて作成しており、金額は円単位で表示しております。
2. 当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は原則として6ヵ月毎に作成しております。
3. 当ファンドは、第21期特定期間（2022年7月21日から2023年1月20日まで）の財務諸表について、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、EY新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

1【財務諸表】

【米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）円ヘッジ・コース】

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第20期 特定期間 (2022年7月20日現在)	第21期 特定期間 (2023年1月20日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	6,697,299	4,101,795
投資信託受益証券	236,463,179	211,526,641
親投資信託受益証券	1,677,357	1,676,860
流動資産合計	244,837,835	217,305,296
資産合計	244,837,835	217,305,296
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	2,788,912	1,897,777
未払解約金	35	409
未払受託者報酬	6,451	5,917
未払委託者報酬	258,123	236,678
未払利息	7	4
その他未払費用	3,003	2,752
流動負債合計	3,056,531	2,143,537
負債合計	3,056,531	2,143,537
純資産の部		
元本等		
元本	929,637,526	948,888,718
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（△）	△687,856,222	△733,726,959
（分配準備積立金）	—	591,819
元本等合計	241,781,304	215,161,759
純資産合計	241,781,304	215,161,759
負債純資産合計	244,837,835	217,305,296

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第20期 特定期間 (自 2022年1月21日 至 2022年7月20日)	第21期 特定期間 (自 2022年7月21日 至 2023年1月20日)
営業収益		
受取配当金	17,101,929	15,708,080
受取利息	21	5
有価証券売買等損益	△40,533,938	△32,986,875
営業収益合計	△23,431,988	△17,278,790
営業費用		
支払利息	1,153	1,151
受託者報酬	44,647	38,761
委託者報酬	1,785,848	1,550,359
その他費用	20,782	18,027
営業費用合計	1,852,430	1,608,298
営業利益	△25,284,418	△18,887,088
経常利益	△25,284,418	△18,887,088
当期純利益	△25,284,418	△18,887,088
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額	197,785	△154,005
期首剰余金又は期首欠損金（△）	△695,369,061	△687,856,222
剰余金増加額又は欠損金減少額	58,852,517	64,992,432
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	58,852,517	64,992,432
剰余金減少額又は欠損金増加額	8,774,388	77,309,753
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	8,774,388	77,309,753
分配金	17,083,087	14,820,333
期末剰余金又は期末欠損金（△）	△687,856,222	△733,726,959

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1 運用資産の評価基準 及び評価方法	(1)投資信託受益証券 基準価額で評価しております。 (2)親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2 費用・収益の計上基準	(1)受取配当金 原則として、収益分配金落ち日において、その金額が確定しているものについては当該金額を計上、未だ確定していない場合は入金日基準で計上しております。 (2)有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

(貸借対照表に関する注記)

第20期 特定期間 (2022年7月20日現在)	第21期 特定期間 (2023年1月20日現在)
1 特定期間の末日における受益権の総数 929,637,526口	1 特定期間の末日における受益権の総数 948,888,718口
2 投資信託財産計算規則第55条の6第1項第10号に 規定する額 元本の欠損 687,856,222円	2 投資信託財産計算規則第55条の6第1項第10号に 規定する額 元本の欠損 733,726,959円
3 特定期間の末日における1単位当たりの純資産の 額 1口当たり純資産額 0.2601円 (1万口当たり純資産額 2,601円)	3 特定期間の末日における1単位当たりの純資産の 額 1口当たり純資産額 0.2268円 (1万口当たり純資産額 2,268円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項 目	期 別	第20期 特定期間 (自 2022年1月21日 至 2022年7月20日)	第21期 特定期間 (自 2022年7月21日 至 2023年1月20日)
分配金の計算過程		2022年1月21日から2022年2月21日までの計算期間末における分配対象金額48,523,710円（1万口当たり491円）のうち、2,962,040円（1万口当たり30円）を分配金額としております。 2022年2月22日から2022年3月22日までの計算期間末における分配対象金額46,989,371円（1万口当たり490円）のうち、2,872,538円（1万口当たり30円）を分配金額としております。 2022年3月23日から2022年4月20日までの計算期間末における分配対象金額46,771,477円（1万口当たり489円）のうち、2,864,873円（1万口当たり30円）を分配金額としております。 2022年4月21日から2022年5月20日までの計算期間末における分配対象金額45,521,380円（1万口当たり486円）のうち、2,808,685円（1万口当たり30円）を分配金額としております。 2022年5月21日から2022年6月20日までの計算期間末における分配対象金額44,844,951円（1万口当たり482円）のうち、2,786,039円（1万口当たり30円）を分配金額としております。 2022年6月21日から2022年7月20日までの計算期間末における分配対象金額44,819,284円（1万口当たり482円）のうち、2,788,912円（1万口当たり30円）を分配金額としております。	2022年7月21日から2022年8月22日までの計算期間末における分配対象金額48,420,821円（1万口当たり481円）のうち、3,019,424円（1万口当たり30円）を分配金額としております。 2022年8月23日から2022年9月20日までの計算期間末における分配対象金額48,041,403円（1万口当たり477円）のうち、3,015,323円（1万口当たり30円）を分配金額としております。 2022年9月21日から2022年10月20日までの計算期間末における分配対象金額47,328,822円（1万口当たり475円）のうち、2,988,441円（1万口当たり30円）を分配金額としております。 2022年10月21日から2022年11月21日までの計算期間末における分配対象金額47,446,160円（1万口当たり474円）のうち、2,000,359円（1万口当たり20円）を分配金額としております。 2022年11月22日から2022年12月20日までの計算期間末における分配対象金額44,829,168円（1万口当たり472円）のうち、1,899,009円（1万口当たり20円）を分配金額としております。 2022年12月21日から2023年1月20日までの計算期間末における分配対象金額44,750,480円（1万口当たり471円）のうち、1,897,777円（1万口当たり20円）を分配金額としております。

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

	第20期 特定期間 （自 2022年1月21日 至 2022年7月20日）	第21期 特定期間 （自 2022年7月21日 至 2023年1月20日）
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であります。 有価証券等の金融商品に対して、信託約款及び委託会社で定めた投資ガイドラインや運用計画書等に従い、投資として運用することを目的としております。	同左
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	金融商品の内容は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務となります。有価証券の詳細については、（その他の注記）2 有価証券関係に記載の通りです。 有価証券に係るリスクとしては、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、信用リスク、流動性リスクなどがあります。	同左
3 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社において、運用部門は定められた運用プロセスを通じて運用リスクを管理します。また、運用部門から独立した委員会を設け、パフォーマンスの分析・評価及び運用リスクの管理を行っております。 ①市場リスクの管理 価格変動リスク等の市場リスクに関しては、パフォーマンスの実績等の状況を常時分析・把握し、投資方針に従っているかを管理しております。 ②信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析、格付のモニタリング等により管理を行っております。 ③流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、市場流動性の状況を把握し、管理を行っております。	同左
4 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。	同左

金融商品の時価等に関する事項

	第20期 特定期間 (2022年7月20日現在)	第21期 特定期間 (2023年1月20日現在)
1 貸借対照表計上額、時価及びその差額	証券投資信託では、金融商品は原則として時価評価されるため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2 貸借対照表の科目ごとの時価の算定方法	投資信託受益証券、親投資信託受益証券については、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）の 1 運用資産の評価基準及び評価方法に記載の通りです。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務については、時価が帳簿価額と近似しているため帳簿価額を時価としております。	同左

(関連当事者との取引に関する注記)

第20期 特定期間 (自 2022年1月21日 至 2022年7月20日)	第21期 特定期間 (自 2022年7月21日 至 2023年1月20日)
該当事項はありません。	同左

(その他の注記)

1 元本の移動

項 目	期 別	第20期 特定期間 (自 2022年1月21日 至 2022年7月20日)	第21期 特定期間 (自 2022年7月21日 至 2023年1月20日)
期首元本額		1,000,693,466 円	929,637,526 円
期中追加設定元本額		12,189,541 円	104,163,957 円
期中一部解約元本額		83,245,481 円	84,912,765 円

2 有価証券関係

売買目的有価証券

第20期 特定期間（自 2022年1月21日 至 2022年7月20日）

種類	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額
投資信託受益証券	14,005,971 円
親投資信託受益証券	0 円
合計	14,005,971 円

第21期 特定期間（自 2022年7月21日 至 2023年1月20日）

種類	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額
投資信託受益証券	9,003,506 円
親投資信託受益証券	0 円
合計	9,003,506 円

3 デリバティブ取引関係

第20期 特定期間（自 2022年1月21日 至 2022年7月20日）
該当事項はありません。

第21期 特定期間（自 2022年7月21日 至 2023年1月20日）
該当事項はありません。

（４）【附属明細表】

①有価証券明細表

a. 株式

該当事項はありません。

b. 株式以外の有価証券

（2023年1月20日現在）

種類	銘柄	券面総額	評価額（円）	備考
投資信託受益証券	クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅱ-USリート・プレミアムファンド（円ヘッジ・クラス）	94,475.40	211,526,641	
合計		94,475.40	211,526,641	

（注）投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

（2023年1月20日現在）

種類	銘柄	券面総額	評価額（円）	備考
親投資信託受益証券	T & Dマネープールマザーファンド	1,653,709	1,676,860	
合計		1,653,709	1,676,860	

（注）親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

②デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）通貨プレミアム・コース】

(1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	第20期 特定期間 (2022年7月20日現在)	第21期 特定期間 (2023年1月20日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	213,486,982	129,416,728
投資信託受益証券	5,082,768,201	4,027,873,640
親投資信託受益証券	29,375,810	20,087,121
流動資産合計	5,325,630,993	4,177,377,489
資産合計	5,325,630,993	4,177,377,489
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	95,716,504	67,808,454
未払解約金	31,922,705	7,449,020
未払受託者報酬	136,698	115,980
未払委託者報酬	5,467,923	4,639,161
未払利息	240	141
その他未払費用	63,783	54,115
流動負債合計	133,307,853	80,066,871
負債合計	133,307,853	80,066,871
純資産の部		
元本等		
元本	27,347,572,653	27,123,381,876
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（△）	△22,155,249,513	△23,026,071,258
（分配準備積立金）	—	11,327,756
元本等合計	5,192,323,140	4,097,310,618
純資産合計	5,192,323,140	4,097,310,618
負債純資産合計	5,325,630,993	4,177,377,489

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第20期 特定期間 (自 2022年1月21日 至 2022年7月20日)	第21期 特定期間 (自 2022年7月21日 至 2023年1月20日)
営業収益		
受取配当金	545,490,762	524,765,556
受取利息	446	73
有価証券売買等損益	△485,847,112	△1,081,696,204
営業収益合計	59,644,096	△556,930,575
営業費用		
支払利息	27,840	30,744
受託者報酬	858,046	790,100
委託者報酬	34,321,830	31,603,986
その他費用	400,361	368,674
営業費用合計	35,608,077	32,793,504
営業利益	24,036,019	△589,724,079
経常利益	24,036,019	△589,724,079
当期純利益	24,036,019	△589,724,079
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額	1,472,290	△12,118,056
期首剰余金又は期首欠損金（△）	△21,799,946,054	△22,155,249,513
剰余金増加額又は欠損金減少額	4,156,813,184	4,105,730,438
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	4,156,813,184	4,105,730,438
剰余金減少額又は欠損金増加額	3,983,127,109	3,900,083,969
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	3,983,127,109	3,900,083,969
分配金	551,553,263	498,862,191
期末剰余金又は期末欠損金（△）	△22,155,249,513	△23,026,071,258

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1 運用資産の評価基準及び評価方法	(1)投資信託受益証券 基準価額で評価しております。 (2)親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2 費用・収益の計上基準	(1)受取配当金 原則として、収益分配金落ち日において、その金額が確定しているものについては当該金額を計上、未だ確定していない場合は入金日基準で計上しております。 (2)有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

(貸借対照表に関する注記)

第20期 特定期間 (2022年7月20日現在)	第21期 特定期間 (2023年1月20日現在)
1 特定期間の末日における受益権の総数 27,347,572,653口	1 特定期間の末日における受益権の総数 27,123,381,876口
2 投資信託財産計算規則第55条の6第1項第10号に規定する額 元本の欠損 22,155,249,513円	2 投資信託財産計算規則第55条の6第1項第10号に規定する額 元本の欠損 23,026,071,258円
3 特定期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 0.1899円 (1万口当たり純資産額 1,899円)	3 特定期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 0.1511円 (1万口当たり純資産額 1,511円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

期 別 項 目	第20期 特定期間 (自 2022年1月21日 至 2022年7月20日)	第21期 特定期間 (自 2022年7月21日 至 2023年1月20日)
分配金の計算過程	2022年1月21日から2022年2月21日までの計算期間末における分配対象金額3,201,782,153円（1万口当たり1,192円）のうち、94,009,626円（1万口当たり35円）を分配金額としております。 2022年2月22日から2022年3月22日までの計算期間末における分配対象金額3,094,430,558円（1万口当たり1,191円）のうち、90,906,418円（1万口当たり35円）を分配金額としております。 2022年3月23日から2022年4月20日までの計算期間末における分配対象金額3,000,674,403円（1万口当たり1,190円）のうち、88,207,344円（1万口当たり35円）を分配金額としております。 2022年4月21日から2022年5月20日までの計算期間末における分配対象金額3,027,031,790円（1万口当たり1,188円）のうち、89,173,036円（1万口当たり35円）を分配金額としております。 2022年5月21日から2022年6月20日までの計算期間末における分配対象金額3,168,361,890円（1万口当たり1,185円）のうち、93,540,335円（1万口当たり35円）を分配金額としております。 2022年6月21日から2022年7月20日までの計算期間末における分配対象金額3,239,757,819円（1万口当たり1,184円）のうち、95,716,504円（1万口当たり35円）を分配金額としております。	2022年7月21日から2022年8月22日までの計算期間末における分配対象金額3,228,763,459円（1万口当たり1,183円）のうち、95,479,177円（1万口当たり35円）を分配金額としております。 2022年8月23日から2022年9月20日までの計算期間末における分配対象金額3,328,918,880円（1万口当たり1,181円）のうち、98,643,186円（1万口当たり35円）を分配金額としております。 2022年9月21日から2022年10月20日までの計算期間末における分配対象金額3,296,844,056円（1万口当たり1,179円）のうち、97,866,929円（1万口当たり35円）を分配金額としております。 2022年10月21日から2022年11月21日までの計算期間末における分配対象金額3,333,505,765円（1万口当たり1,177円）のうち、70,772,821円（1万口当たり25円）を分配金額としております。 2022年11月22日から2022年12月20日までの計算期間末における分配対象金額3,212,444,758円（1万口当たり1,175円）のうち、68,291,624円（1万口当たり25円）を分配金額としております。 2022年12月21日から2023年1月20日までの計算期間末における分配対象金額3,184,797,257円（1万口当たり1,174円）のうち、67,808,454円（1万口当たり25円）を分配金額としております。

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

	第20期 特定期間 （自 2022年1月21日 至 2022年7月20日）	第21期 特定期間 （自 2022年7月21日 至 2023年1月20日）
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であります。 有価証券等の金融商品に対して、信託約款及び委託会社で定めた投資ガイドラインや運用計画書等に従い、投資として運用することを目的としております。	同左
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	金融商品の内容は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務となります。有価証券の詳細については、（その他の注記）2 有価証券関係に記載の通りです。 有価証券に係るリスクとしては、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、信用リスク、流動性リスクなどがあります。	同左
3 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社において、運用部門は定められた運用プロセスを通じて運用リスクを管理します。また、運用部門から独立した委員会を設け、パフォーマンスの分析・評価及び運用リスクの管理を行っております。 ①市場リスクの管理 価格変動リスク等の市場リスクに関しては、パフォーマンスの実績等の状況を常時分析・把握し、投資方針に従っているかを管理しております。 ②信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析、格付のモニタリング等により管理を行っております。 ③流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、市場流動性の状況を把握し、管理を行っております。	同左
4 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

金融商品の時価等に関する事項

	第20期 特定期間 (2022年7月20日現在)	第21期 特定期間 (2023年1月20日現在)
1 貸借対照表計上額、時価及びその差額	証券投資信託では、金融商品は原則として時価評価されるため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2 貸借対照表の科目ごとの時価の算定方法	投資信託受益証券、親投資信託受益証券については、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）の 1 運用資産の評価基準及び評価方法に記載の通りです。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務については、時価が帳簿価額と近似しているため帳簿価額を時価としております。	同左

(関連当事者との取引に関する注記)

第20期 特定期間 (自 2022年1月21日 至 2022年7月20日)	第21期 特定期間 (自 2022年7月21日 至 2023年1月20日)
該当事項はありません。	同左

(その他の注記)

1 元本の移動

項 目	期 別	第20期 特定期間 (自 2022年1月21日 至 2022年7月20日)	第21期 特定期間 (自 2022年7月21日 至 2023年1月20日)
期首元本額		27,610,416,355 円	27,347,572,653 円
期中追加設定元本額		4,948,468,453 円	4,733,702,510 円
期中一部解約元本額		5,211,312,155 円	4,957,893,287 円

2 有価証券関係

売買目的有価証券

第20期 特定期間（自 2022年1月21日 至 2022年7月20日）

種類	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額
投資信託受益証券	363,240,075 円
親投資信託受益証券	0 円
合計	363,240,075 円

第21期 特定期間（自 2022年7月21日 至 2023年1月20日）

種類	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額
投資信託受益証券	△62,967,576 円
親投資信託受益証券	△1 円
合計	△62,967,577 円

3 デリバティブ取引関係

第20期 特定期間（自 2022年1月21日 至 2022年7月20日）

該当事項はありません。

第21期 特定期間（自 2022年7月21日 至 2023年1月20日）

該当事項はありません。

(4) 【附属明細表】

①有価証券明細表

a. 株式

該当事項はありません。

b. 株式以外の有価証券

(2023年1月20日現在)

種類	銘柄	券面総額	評価額（円）	備考
投資信託受益証券	クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）II-USリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）	2,698,995.98	4,027,873,640	
合計		2,698,995.98	4,027,873,640	

(注) 投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

(2023年1月20日現在)

種類	銘柄	券面総額	評価額（円）	備考
親投資信託受益証券	T & Dマネープールマザーファンド	19,809,785	20,087,121	
合計		19,809,785	20,087,121	

(注) 親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

②デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【米国リート・プレミアムファンド（年2回決算型）マネープール・コース】

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）（以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）（以下「投資信託財産計算規則」という。）に基づいて作成しており、金額は円単位で表示しております。
2. 当ファンドは、第20期計算期間（2022年7月21日から2023年1月20日まで）の財務諸表について、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、EY新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

米国リート・プレミアムファンド（年2回決算型）マネープール・コース

(1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	第19期 (2022年7月20日現在)	第20期 (2023年1月20日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	10,000	10,000
親投資信託受益証券	89,740	89,713
流動資産合計	99,740	99,713
資産合計	99,740	99,713
負債の部		
負債合計	—	—
純資産の部		
元本等		
元本	100,000	100,000
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（△）	△260	△287
（分配準備積立金）	102	102
元本等合計	99,740	99,713
純資産合計	99,740	99,713
負債純資産合計	99,740	99,713

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第19期 (自 2022年1月21日 至 2022年7月20日)	第20期 (自 2022年7月21日 至 2023年1月20日)
営業収益		
有価証券売買等損益	△17	△27
営業収益合計	△17	△27
営業費用		
営業費用合計	—	—
営業利益	△17	△27
経常利益	△17	△27
当期純利益	△17	△27
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額	—	—
期首剰余金又は期首欠損金（△）	△243	△260
剰余金増加額又は欠損金減少額	—	—
剰余金減少額又は欠損金増加額	—	—
分配金	—	—
期末剰余金又は期末欠損金（△）	△260	△287

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1 運用資産の評価基準 及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2 費用・収益の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

(貸借対照表に関する注記)

第19期 (2022年7月20日現在)	第20期 (2023年1月20日現在)
1 計算期間の末日における受益権の総数 100,000口	1 計算期間の末日における受益権の総数 100,000口
2 投資信託財産計算規則第55条の6第1項第10号に規定する額 元本の欠損 260円	2 投資信託財産計算規則第55条の6第1項第10号に規定する額 元本の欠損 287円
3 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 0.9974円 (1万口当たり純資産額 9,974円)	3 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 0.9971円 (1万口当たり純資産額 9,971円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

期 別	第19期 (自 2022年1月21日 至 2022年7月20日)	第20期 (自 2022年7月21日 至 2023年1月20日)
項 目		
分配金の計算過程	計算期間末における費用控除後配当等収益(0円)、費用控除後有価証券売買等損益(0円)、収益調整金(0円)、及び分配準備積立金(102円)より、分配対象収益は102円(1万口当たり10円)となりましたが、当期の分配は見送りとさせていただきます。	計算期間末における費用控除後配当等収益(0円)、費用控除後有価証券売買等損益(0円)、収益調整金(0円)、及び分配準備積立金(102円)より、分配対象収益は102円(1万口当たり10円)となりましたが、当期の分配は見送りとさせていただきます。

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

	第19期 （自 2022年1月21日 至 2022年7月20日）	第20期 （自 2022年7月21日 至 2023年1月20日）
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であります。 有価証券等の金融商品に対して、信託約款及び委託会社で定めた投資ガイドラインや運用計画書等に従い、投資として運用することを目的としております。	同左
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	金融商品の内容は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務となります。有価証券の詳細については、（その他の注記）2 有価証券関係に記載の通りです。 有価証券に係るリスクとしては、価格変動リスク、金利変動リスク、信用リスク、流動性リスクなどがあります。	同左
3 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社において、運用部門は定められた運用プロセスを通じて運用リスクを管理します。また、運用部門から独立した委員会を設け、パフォーマンスの分析・評価及び運用リスクの管理を行っております。 ①市場リスクの管理 価格変動リスク等の市場リスクに関しては、パフォーマンスの実績等の状況を常時分析・把握し、投資方針に従っているかを管理しております。 ②信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析、格付のモニタリング等により管理を行っております。 ③流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、市場流動性の状況を把握し、管理を行っております。	同左
4 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

金融商品の時価等に関する事項

	第19期 (2022年7月20日現在)	第20期 (2023年1月20日現在)
1 貸借対照表計上額、時価及びその差額	証券投資信託では、金融商品は原則として時価評価されるため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2 貸借対照表の科目ごとの時価の算定方法	親投資信託受益証券については、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）の 1 運用資産の評価基準及び評価方法に記載の通りです。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務については、時価が帳簿価額と近似しているため帳簿価額を時価としております。	同左

(関連当事者との取引に関する注記)

第19期 (自 2022年1月21日 至 2022年7月20日)	第20期 (自 2022年7月21日 至 2023年1月20日)
該当事項はありません。	同左

(その他の注記)

1 元本の移動

期 別 項 目	第19期 (自 2022年1月21日 至 2022年7月20日)	第20期 (自 2022年7月21日 至 2023年1月20日)
期首元本額	100,000 円	100,000 円
期中追加設定元本額	－ 円	－ 円
期中一部解約元本額	－ 円	－ 円

2 有価証券関係

売買目的有価証券

第19期（自 2022年1月21日 至 2022年7月20日）

種類	当計算期間の損益に 含まれた評価差額
親投資信託受益証券	△17 円
合計	△17 円

第20期（自 2022年7月21日 至 2023年1月20日）

種類	当計算期間の損益に 含まれた評価差額
親投資信託受益証券	△27 円
合計	△27 円

3 デリバティブ取引関係

第19期（自 2022年1月21日 至 2022年7月20日）

該当事項はありません。

第20期（自 2022年7月21日 至 2023年1月20日）

該当事項はありません。

（4）【附属明細表】

①有価証券明細表

a. 株式

該当事項はありません。

b. 株式以外の有価証券

（2023年1月20日現在）

種類	銘柄	券面総額（口）	評価額（円）	備考
親投資信託受益証券	T & Dマネープールマ ザーファンド	88,475	89,713	
合計		88,475	89,713	

（注）親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

②デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）

クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅱ－USリート・プレミアムファンド

（円ヘッジ・クラス）／（通貨プレミアム・クラス）の組入資産の明細

作成基準日：2023年1月30日

担保付スワップ

（単位：円）

	想定元本額	評価額
円ヘッジ・クラス	944,754,155	216,052,994
通貨プレミアム・クラス	26,707,420,218	4,132,519,253
合計		4,348,572,247

（日付は現地基準です。）

(参考) T & Dマネープールマザーファンドの状況

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

当ファンドは「T & Dマネープールマザーファンド」受益証券を投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」はすべて同マザーファンド受益証券です。

(1) 貸借対照表

(単位：円)

科 目	対象年月日	(2022年7月20日現在)	(2023年1月20日現在)
		金額	金額
資産の部			
流動資産			
コール・ローン		378,188,256	338,884,207
流動資産合計		378,188,256	338,884,207
資産合計		378,188,256	338,884,207
負債の部			
流動負債			
未払利息		426	369
流動負債合計		426	369
負債合計		426	369
純資産の部			
元本等			
元本		372,872,983	334,220,038
剰余金			
期末剰余金又は期末欠損金（△）		5,314,847	4,663,800
元本等合計		378,187,830	338,883,838
純資産合計		378,187,830	338,883,838
負債純資産合計		378,188,256	338,884,207

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

該当事項はありません。

(貸借対照表に関する注記)

(2022年7月20日現在)		(2023年1月20日現在)	
1 計算期間の末日における受益権の総数		1 計算期間の末日における受益権の総数	
372,872,983口		334,220,038口	
2 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額		2 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額	
1口当たり純資産額 1.0143円		1口当たり純資産額 1.0140円	
(1万口当たり純資産額 10,143円)		(1万口当たり純資産額 10,140円)	

(その他の注記)

1 元本の移動

項 目	対象年月日	(2022年7月20日現在)	(2023年1月20日現在)
期首元本額		402,497,003 円	372,872,983 円
期中追加設定元本額		— 円	4,308,880 円
期中一部解約元本額		29,624,020 円	42,961,825 円
期末元本額		372,872,983 円	334,220,038 円
元本の内訳*			
野村エマージング債券 投信（円コース）毎月 分配型		15,203,451 円	15,203,451 円
野村エマージング債券 投信（円コース）年2 回決算型		4,690,232 円	4,690,232 円
野村エマージング債券 投信（豪ドルコース） 毎月分配型		13,394,468 円	13,394,468 円
野村エマージング債券 投信（豪ドルコース） 年2回決算型		1,651,239 円	1,651,239 円
野村エマージング債券 投信（ブラジルリアル コース）毎月分配型		124,252,174 円	124,252,174 円
野村エマージング債券 投信（ブラジルリアル コース）年2回決算型		7,765,966 円	7,765,966 円
野村エマージング債券 投信（南アフリカラン ドコース）毎月分配型		1,413,489 円	1,413,489 円
野村エマージング債券 投信（南アフリカラン ドコース）年2回決算 型		131,726 円	131,726 円
野村エマージング債券 投信（マネープール ファンド）年2回決算 型		177,813 円	828,637 円

T & Dインド中小型株ファンド	69,040,591 円	69,040,591 円
野村エマージング債券投信（カナダドルコース）毎月分配型	1,038,862 円	555,674 円
野村エマージング債券投信（カナダドルコース）年2回決算型	71,774 円	71,774 円
野村エマージング債券投信（メキシコペソコース）毎月分配型	43,012,339 円	23,292,362 円
野村エマージング債券投信（メキシコペソコース）年2回決算型	7,932,323 円	3,988,327 円
野村エマージング債券投信（トルコリラコース）毎月分配型	15,489,184 円	15,489,184 円
野村エマージング債券投信（トルコリラコース）年2回決算型	2,464,915 円	2,464,915 円
野村エマージング債券投信（金コース）毎月分配型	10,580,958 円	3,974,765 円
野村エマージング債券投信（金コース）年2回決算型	5,829,793 円	2,773,196 円
米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）円ヘッジ・コース	1,653,709 円	1,653,709 円
米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）通貨プレミアム・コース	28,961,659 円	19,809,785 円
豪州高配当株ツインαファンド（毎月分配型）	9,718,980 円	13,377,036 円
米国リート・プレミアムファンド（年2回決算型）マネープール・コース	88,475 円	88,475 円
野村エマージング債券投信（米ドルコース）毎月分配型	6,884,550 円	6,884,550 円
野村エマージング債券投信（米ドルコース）年2回決算型	1,424,313 円	1,424,313 円
合計	372,872,983 円	334,220,038 円

＊当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

2 売買目的有価証券の貸借対照表計上額等

（自 2022年1月21日 至 2022年7月20日）

該当事項はありません。

（自 2022年7月21日 至 2023年1月20日）

該当事項はありません。

3 デリバティブ取引関係

（自 2022年1月21日 至 2022年7月20日）

該当事項はありません。

（自 2022年7月21日 至 2023年1月20日）

該当事項はありません。

（3）附属明細表

①有価証券明細表

a. 株式

該当事項はありません。

b. 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

②デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

(2023年2月28日現在)

米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）円ヘッジ・コース

I 資産総額	269,944,392	円
II 負債総額	18,483,553	円
III 純資産総額（I－II）	251,460,839	円
IV 発行済数量	1,151,959,931	口
V 1単位当たり純資産額（III／IV）	0.2183	円

米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）通貨プレミアム・コース

I 資産総額	4,052,680,943	円
II 負債総額	36,774,782	円
III 純資産総額（I－II）	4,015,906,161	円
IV 発行済数量	26,628,158,308	口
V 1単位当たり純資産額（III／IV）	0.1508	円

米国リート・プレミアムファンド（年2回決算型）マネープール・コース

I 資産総額	99,704	円
II 負債総額	—	円
III 純資産総額（I－II）	99,704	円
IV 発行済数量	100,000	口
V 1単位当たり純資産額（III／IV）	0.9970	円

（参考）T & Dマネープールマザーファンド

I 資産総額	338,054,581	円
II 負債総額	465	円
III 純資産総額（I－II）	338,054,116	円
IV 発行済数量	333,421,142	口
V 1単位当たり純資産額（III／IV）	1.0139	円

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まり、この信託の受益権を取扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

1. 名義書換についての手続、取扱場所等

ありません。

2. 受益者に対する特典

ありません。

3. 受益権の譲渡

譲渡制限はありません。ただし、受益権の譲渡の手続および受益権の譲渡の対抗要件は以下によるものとします。

- ①受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。
- ②上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。
- ③委託会社は、上記①に規定する振替について、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。
- ④受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

4. 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と合意のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できます。

5. 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払、換金申込の受付、換金代金および償還金の支払等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

（1）資本金の額

2023年2月末日現在の資本金の額	11億円
会社が発行する株式の総数	2,294,100株
発行済株式総数	1,082,500株
過去5年間ににおける資本金の額の増減	該当事項はありません。

（2）会社の機構

①経営体制

10名以内の取締役が、株主総会において選任されます。取締役の選任は株主総会において、総株主の議決権の3分の1以上に当たる株式を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもってこれを行い、累積投票によらないものとします。

取締役の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度に関する定時株主総会終結の時までとします。

取締役会はその決議をもって、取締役中より取締役会長、取締役社長各1名、取締役副社長若干名を選定することができます。また取締役中より代表取締役を選定します。

取締役会は、取締役社長が招集します。取締役社長に事故があるときは、取締役会においてあらかじめ定めた順序により、他の取締役がこれを招集します。取締役会の招集通知は会日の2日前までにこれを発します。ただし、緊急の場合は、この期間を短縮することができます。また取締役および監査役全員の同意がある場合は、これを省略することができます。

取締役会は、法令または定款に定める事項の他、業務執行に関する重要事項を決定します。その決議は、取締役の過半数が出席し、その出席取締役の過半数をもって行います。

②投資信託運用の意思決定と運用の流れ

a. 基本運用方針、月次運用計画の決定

投資政策委員会（原則月1回開催）において投資信託の基本運用方針に関する事項が審議・決定され、各運用部長において月次運用計画に関する事項が決定されます。

b. 運用の実行

月次運用計画に沿って、ファンド・マネージャーからトレーディング部に売買発注指示があり、売買が執行されます。

c. 運用のチェック等

- ・業務管理部において、運用上の諸リスクの管理および運用実績の評価等を行い、運用審査委員会にて報告・審議が行われます。
- ・法務・コンプライアンス部において、日次で有価証券等の取引内容のチェック・運用制限遵守のチェック等が実施され、コンプライアンス委員会および取締役会に報告を行っています。

会社の機構は2023年2月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。

また「金融商品取引法」に定める投資助言業務および第二種金融商品取引業を行っています。

委託会社の運用する証券投資信託は2023年2月末日現在、257本であり、その純資産総額の合計は1,032,995百万円です（ただし、親投資信託を除きます。）。

種類	本数	純資産総額
追加型株式投資信託	121本	547,997百万円

単位型株式投資信託	82本	285,669百万円
単位型公社債投資信託	54本	199,330百万円
合計	257本	1,032,995百万円

3【委託会社等の経理状況】

1. 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）により作成しております。
また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）ならびに同規則第38条及び57条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）により作成しております。
2. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第42期事業年度（2021年4月1日から2022年3月31日まで）の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による監査を受けております。
また、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第43期中間会計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）の中間財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による中間監査を受けております。

(1) 【貸借対照表】

区分	注記 番号	第41期 (2021年3月31日現在)		第42期 (2022年3月31日現在)	
		内訳 (千円)	金額 (千円)	内訳 (千円)	金額 (千円)
(資産の部)					
I 流動資産					
1. 預金			7,160,745		6,978,199
2. 前払費用			53,716		54,274
3. 未収入金			-		8,625
4. 未収委託者報酬			864,128		716,365
5. 未収運用受託報酬			346,844		354,202
6. その他			33,509		24,792
流動資産計			8,458,944		8,136,459
II 固定資産					
1. 有形固定資産			91,256		74,400
(1) 建物	※ 1	73,436		66,050	
(2) 器具備品	※ 1	17,660		8,230	
(3) その他	※ 1	159		119	
2. 無形固定資産			68,667		71,539
(1) 電話加入権		2,862		2,862	
(2) ソフトウェア		54,941		59,406	
(3) ソフトウェア仮勘定		10,863		9,269	
3. 投資その他の資産			844,672		939,668
(1) 投資有価証券		496,104		604,303	
(2) 関係会社株式		3,264		-	
(3) 長期差入保証金		101,261		95,968	
(4) 繰延税金資産		226,048		218,220	
(5) 長期前払費用		17,993		21,176	
固定資産計			1,004,597		1,085,609
資産合計			9,463,541		9,222,068

		第41期 (2021年3月31日現在)		第42期 (2022年3月31日現在)	
区分	注記 番号	内訳 (千円)	金額 (千円)	内訳 (千円)	金額 (千円)
(負債の部)					
I 流動負債					
1. 預り金			4,236		218
2. 未払金			373,559		278,345
(1) 未払収益分配金		1,521		2,286	
(2) 未払償還金		2		2	
(3) 未払手数料		302,483		228,262	
(4) その他未払金		69,552		47,794	
3. 未払費用			613,492		519,451
4. 未払法人税等			12,283		12,080
5. 未払消費税等			25,230		16,108
6. 賞与引当金			191,517		187,243
7. 役員賞与引当金			14,800		8,700
8. 時効後支払損引当金			37,988		-
流動負債計			1,273,108		1,022,147
II 固定負債					
1. 退職給付引当金			462,595		467,064
2. 役員退職慰労引当金			36,524		20,098
固定負債計			499,119		487,162
負債合計			1,772,228		1,509,309
(純資産の部)					
I 株主資本					
1. 資本金			1,100,000		1,100,000
2. 資本剰余金			277,667		277,667
(1) 資本準備金		277,667		277,667	
3. 利益剰余金			6,343,225		6,380,670
(1) 利益準備金		175,000		175,000	
(2) その他利益剰余金					
別途積立金		3,137,790		3,137,790	
繰越利益剰余金		3,030,435		3,067,880	
株主資本計			7,720,893		7,758,338
II 評価・換算差額等					
1. その他有価証券評価差額金			△29,580		△45,578
評価・換算差額等計			△29,580		△45,578
純資産合計			7,691,313		7,712,759
負債・純資産合計			9,463,541		9,222,068

(2) 【損益計算書】

		第41期 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)		第42期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	
区分	注記 番号	内訳 (千円)	金額 (千円)	内訳 (千円)	金額 (千円)
I 営業収益					
1. 委託者報酬			5,245,922		4,558,494
2. 運用受託報酬			1,397,717		1,399,429
3. 投資助言報酬			10,000		10,000
4. その他営業収益			-		18,298
営業収益計			6,653,639		5,986,222
II 営業費用					
1. 支払手数料			2,010,648		1,627,048
2. 広告宣伝費			160		277
3. 調査費			2,025,602		1,954,047
(1) 調査費		133,814		116,921	
(2) 委託調査費		1,491,662		1,426,947	
(3) 情報機器関連費		399,102		409,466	
(4) 図書費		1,022		711	
4. 委託計算費			212,665		203,993
5. 営業雑経費			101,181		100,494
(1) 通信費		9,730		8,831	
(2) 印刷費		80,401		81,080	
(3) 協会費		6,748		5,861	
(4) 諸会費		4,300		4,721	
営業費用計			4,350,259		3,885,861
III 一般管理費					
1. 給料			1,237,133		1,178,821
(1) 役員報酬		87,649		60,206	
(2) 給料・手当		1,085,640		1,053,344	
(3) 賞与		63,844		65,270	
2. 法定福利費			198,885		193,545
3. 退職金			-		3,106
4. 福利厚生費			4,808		4,677
5. 交際費			105		521
6. 寄付金			500		86
7. 旅費交通費			8,997		842
8. 事務委託費			102,494		91,137
9. 租税公課			137,151		112,592
10. 不動産賃借料			154,577		156,478
11. 退職給付費用			55,702		52,920
12. 役員退職慰労金			-		2,880
13. 役員退職慰労引当金繰入			5,867		4,201
14. 賞与引当金繰入			191,517		187,243
15. 役員賞与引当金繰入			14,800		8,700
16. 固定資産減価償却費			34,453		33,353
17. 諸経費			42,241		41,846
一般管理費計			2,189,236		2,072,955
営業利益			114,143		27,404
IV 営業外収益					
1. 受取配当金			985		983

2. 受取利息			69		48
3. 時効成立分配金・償還金			498		-
4. 助成金収入			482		581
5. 時効後支払損引当金戻入			-		37,988
6. 雑収入			70		1,408
営業外収益計			2,106		41,010
V 営業外費用					
1. 為替差損			7,741		12,166
2. 雑損失			-		0
営業外費用計			7,741		12,166
経常利益			108,508		56,248
VI 特別利益					
1. 投資有価証券売却益			2		319
特別利益計			2		319
VII 特別損失					
1. 固定資産除却損	※ 1		820		-
2. 関係会社株式清算損	※ 2		-		1,110
3. 投資有価証券評価損			695		-
4. 投資有価証券売却損			2,084		734
5. 関係会社株式評価損			2,121		-
特別損失計			5,723		1,844
税引前当期純利益			102,788		54,722
法人税、住民税及び事業税			42,912		2,388
法人税等調整額			2,215		14,889
当期純利益			57,660		37,444

（３）【株主資本等変動計算書】

第41期（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

（単位：千円）

	株 主 資 本							株主資本 合計
	資本金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金				
		資本 準備金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
					別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	1,100,000	277,667	277,667	175,000	3,137,790	2,972,775	6,285,565	7,663,233
当期変動額								
当期純利益						57,660	57,660	57,660
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	57,660	57,660	57,660
当期末残高	1,100,000	277,667	277,667	175,000	3,137,790	3,030,435	6,343,225	7,720,893

	評価・換算差額等		純資産 合 計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△ 1,215	△ 1,215	7,662,018
当期変動額			
当期純利益			57,660
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△ 28,364	△ 28,364	△ 28,364
当期変動額合計	△ 28,364	△ 28,364	29,295
当期末残高	△ 29,580	△ 29,580	7,691,313

第42期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：千円）

	株 主 資 本							株主資本 合計
	資本金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金				
		資本 準備金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
					別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	1,100,000	277,667	277,667	175,000	3,137,790	3,030,435	6,343,225	7,720,893
当期変動額								
当期純利益						37,444	37,444	37,444
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	37,444	37,444	37,444
当期末残高	1,100,000	277,667	277,667	175,000	3,137,790	3,067,880	6,380,670	7,758,338

	評価 ・ 換算差額等		純資産 合 計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△ 29,580	△ 29,580	7,691,313
当期変動額			
当期純利益			37,444
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△ 15,998	△ 15,998	△ 15,998
当期変動額合計	△ 15,998	△ 15,998	21,445
当期末残高	△ 45,578	△ 45,578	7,712,759

重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

市場価格のない株式等

移動平均法に基づく原価法を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	3～50年
器具備品	2～15年
その他	8年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(2) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えるため、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、簡便法（期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法）により、期末要支給額を計上しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

(1) 委託者報酬

委託者報酬は、投資信託約款に基づき、一定の期間にわたる運用により履行義務が充足されると判断しているため、投資信託の日々の純資産総額に信託報酬率を乗じた金額で収益を認識しております。

委託者報酬に含まれる成功報酬については、投資信託約款に基づき対象となる投資信託の特定のパフォーマンス目標を上回る超過運用益に対する一定割合として認識されます。当該報酬は成功報酬を受領する権利が確定した時点で収益として認識しております。

(2) 運用受託報酬

運用受託報酬は、投資一任契約に基づき、契約期間にわたる運用により履行義務が充足されると判断しているため、投資一任契約に基づき算出された計算基礎残高に投資顧問料率を乗じた金額で収益を認識しております。

運用受託報酬に含まれる成功報酬については、投資一任契約に基づき対象となる運用資産の特定のベンチマークまたはその他のパフォーマンス目標を上回る超過運用益に対する一定割合として認識されます。当該報酬は成功報酬を受領する権利が確定した時点で収益として認識しております。

(3) 投資助言報酬

投資助言報酬は、投資顧問契約に基づき、契約期間にわたり均一の助言サービスを提供するものであるため、期間の経過に応じて履行義務が充足されると判断しており、役務を提供する期間にわたり収益を認識しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(2) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

なお、当社は、「所得税法等の一部を改正する法律」（令和2年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号 2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

会計方針の変更

1. 収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の期首残高に与える影響はありません。

2. 時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取り扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしました。これによる財務諸表に与える影響はありません。

未適用の会計基準等

（時価の算定に関する会計基準等）

- ・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日 企業会計基準委員会）

（1）概要

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第31号）の2021年6月17日の改正は、2019年7月4日の公表時において、「投資信託の時価の算定」に関する検討には、関係者との協議等に一定の期間が必要と考えられるため、また、「貸借対照表に持分相当額を純額で計上する組合等への出資」の時価の注記についても、一定の検討を要するため、「時価の算定に関する会計基準」公表後、概ね1年をかけて検討を行うこととされていたものが、改正され、公表されたものです。

（2）適用予定日

2023年3月期の期首から適用します。

（3）当該会計基準等の適用による影響

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」の適用による財務諸表に与える影響額については、現時点では評価中であり、ます。

（グループ通算制度を適用する場合の会計処理等）

- ・「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日 企業会計基準委員会）

（1）概要

2020年3月27日に成立した「所得税法等の一部を改正する法律」（令和2年法律第8号）において、連結納税制度を見直しグループ通算制度へ移行することとされたことを受け、グループ通算制度を適用する場合における法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示の取扱いを明らかにすることを目的として企業会計基準委員会から公表されたものです。

（2）適用予定日

2023年3月期の期首から適用します。

（3）当該会計基準等の適用による影響

「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」の適用による財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

注記事項

（貸借対照表関係）

第41期 (2021年3月31日現在)	第42期 (2022年3月31日現在)
※1 有形固定資産の減価償却累計額 建物 63,145千円 器具備品 166,398千円 その他 737千円	※1 有形固定資産の減価償却累計額 建物 70,532千円 器具備品 175,827千円 その他 777千円

（損益計算書関係）

第41期 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	第42期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
※1 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。 器具備品 0千円 ソフトウェア 820千円 ※2 該当事項はありません。	※1 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。 器具備品 -千円 ソフトウェア -千円 ※2 関係会社株式清算損は、子会社である、T&D Asset Management Cayman Inc.の清算によるものです。

（株主資本等変動計算書関係）

第41期（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数（千株）	当事業年度増加 株式数（千株）	当事業年度減少 株式数（千株）	当事業年度末 株式数（千株）
普通株式	1,082	—	—	1,082

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。

第42期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数（千株）	当事業年度増加 株式数（千株）	当事業年度減少 株式数（千株）	当事業年度末 株式数（千株）
普通株式	1,082	—	—	1,082

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2022年6月10日開催の第42期定時株主総会において、次のとおり決議する予定です。

- | | |
|-------------|-------------|
| 1) 配当金の総額 | 2,000,460千円 |
| 2) 配当の原資 | 利益剰余金 |
| 3) 1株当たり配当額 | 1,848.00円 |
| 4) 基準日 | 2022年3月31日 |
| 5) 効力発生日 | 2022年6月13日 |

（金融商品関係）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社では、資金運用については原則として預金等の資産を中心に投資する方針であり、有価証券の取得を行う場合には、投機的な取引は行いません。

また、資金調達については、主に金融機関からの借入による方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は顧客の信用リスクに晒されておりますが、主に信託銀行により分別管理が行われている信託財産から支弁されており、当該リスクの影響は軽微であります。

投資有価証券は、主に非上場株式及び投資信託であります。非上場株式は業務上の関係維持を目的として保有しており、定期的に発行体の財務状況等の把握を行っております。投資信託は当社が設定する投資信託を商品性の維持等を目的に取得しているものであり、市場価格等の変動リスクに晒されております。

未払金、未払費用は、ほとんどが1年以内の支払期日です。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

当社は、「リスク管理基本方針」にて各種リスクの基本的考え方を定めており、「財務リスク管理規程」によって、財務リスク（資金繰りリスク、信用リスク、価格変動リスク）の管理方法を定めています。財務リスクの状況は、月次で開催されるリスク管理委員会にてモニタリングが行われます。

2. 金融商品の時価等に関する事項

第41期（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

2021年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。市場価格のない株式等は、次表に含めておりません（（注1）参照）。また、預金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未払金及び未払費用は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、注記を省略しております。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 投資有価証券 其他有価証券	465,904	465,904	—
資産計	465,904	465,904	—

（注1）市場価格のない株式等の貸借対照表計上額は次の通りであり、金融商品の時価情報の「其他有価証券」には含めておりません。

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額
(1) 非上場株式	30,200
(2) 子会社株式	3,264
合計	33,464

（注2）金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超
預金	7,160,745	—	—
未収委託者報酬	864,128	—	—
未収運用受託報酬	346,844	—	—
投資有価証券 其他有価証券のうち満期があるもの(その他)	5,211	2,529	1,063
合計	8,376,929	2,529	1,063

第42期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

2022年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。市場価格のない株式等は、次表に含めておりません（（注1）参照）。また、預金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未払金及び未払費用は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、注記を省略しております。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 投資有価証券 其他有価証券	574,103	574,103	—
資産計	574,103	574,103	—

（注1）市場価格のない株式等の貸借対照表計上額は次の通りであり、金融商品の時価情報の「其他有価証券」には含めておりません。

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額
(1) 非上場株式	30,200
合計	30,200

（注2）金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超
預金	6,978,199	—	—
未収委託者報酬	716,365	—	—
未収運用受託報酬	354,202	—	—
投資有価証券 其他有価証券のうち満期があるもの(その他)	—	45,173	98,930
合計	8,048,767	45,173	98,930

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1 の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2 の時価：レベル1 のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3 の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価で貸借対照表に計上している金融商品

第42期（2022年3月31日現在）

当該金融商品は投資信託のみであり、投資信託の時価はレベルごとの内訳表記をしておりません。投資信託の貸借対照表計上額は574,103千円です。

（有価証券関係）

第41期（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

1. その他有価証券

その他有価証券の当事業年度中の売却額は17,633千円であり、売却益の合計額は2千円、売却損の合計額は2,084千円であります。また、その他有価証券において、種類ごとの貸借対照表計上額、取得原価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：千円）

	種類(*)	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) その他	5,147	4,588	559
	小計	5,147	4,588	559
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) その他	460,757	503,951	△43,194
	小計	460,757	503,951	△43,194
合計		465,904	508,539	△42,634

(*) 当事業年度中において、保有目的が変更となった有価証券はありません。

2. 減損処理を行った有価証券

当事業年度中において、投資有価証券について695千円（その他有価証券695千円）、関係会社株式について2,121千円減損処理を行っております。

第42期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1. その他有価証券

その他有価証券の当事業年度中の売却額は12,497千円であり、売却益の合計額は319千円、売却損の合計額は734千円であります。また、その他有価証券において、種類ごとの貸借対照表計上額、取得原価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：千円）

	種類(*)	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) その他	39,911	34,197	5,713
	小計	39,911	34,197	5,713
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) その他	534,191	605,600	△71,408
	小計	534,191	605,600	△71,408
合計		574,103	639,797	△65,694

(*) 当事業年度中において、保有目的が変更となった有価証券はありません。

2. 減損処理を行った有価証券

該当事項はありません。

（収益認識関係）

1. 収益を分解した情報

（単位：千円）

	第41期 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	第42期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
1. 委託者報酬	5,245,922	4,558,494
2. 運用受託報酬	1,397,717	1,399,429
3. 投資助言報酬	10,000	10,000
4. その他営業収益	-	18,298
合計	6,653,639	5,986,222

2. 収益を理解するための基礎となる情報は「重要な会計方針 4. 収益及び費用の計上基準」に記載の通りです。

（退職給付関係）

第41期（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。

当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1)簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	419,613千円
退職給付費用	42,982千円
退職給付の支払額	- 千円
退職給付引当金の期末残高	462,595千円

(2)退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

退職一時金制度の退職給付債務	462,595千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	462,595千円

退職給付引当金	462,595千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	462,595千円

(3)退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	43,987千円
----------------	----------

（注）退職給付費用には株式会社T & Dホールディングスからの出向者に対する当社負担分を含めております。

3. 確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額	11,714千円
--------------	----------

第42期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。

当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1)簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	462,595千円
退職給付費用	39,993千円
退職給付の支払額	<u>△35,524千円</u>
退職給付引当金の期末残高	467,064千円

(2)退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

退職一時金制度の退職給付債務	467,064千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	<u>467,064千円</u>

退職給付引当金	467,064千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	<u>467,064千円</u>

(3)退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	41,812千円
----------------	----------

（注）退職給付費用には株式会社T & Dホールディングスからの出向者に対する当社負担分を含めております。

3. 確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額	11,108千円
--------------	----------

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第41期（2021年3月31日現在）	第42期（2022年3月31日現在）
	(単位：千円)	(単位：千円)
（繰延税金資産）		
賞与引当金	58,642	57,333
未払社会保険料	9,817	9,416
未払事業税	2,429	2,628
退職給付引当金	152,830	149,169
連結納税加入に伴う有価証券 時価評価益	15,061	15,061
時効後支払損引当金	11,632	-
その他有価証券評価差額金	13,054	20,115
その他	17,952	17,344
小計	281,421	271,069
評価性引当額	△55,372	△52,848
繰延税金資産計	226,048	218,220
繰延税金資産の純額	226,048	218,220

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	第41期（2021年3月31日現在）	第42期（2022年3月31日現在）
法定実効税率	30.6 %	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.6	
住民税均等割	2.2	
評価性引当額	6.7	
その他	△0.3	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	43.9	

（セグメント情報等）

1. セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2. 関連情報

第41期（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

（1）製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益各項目の区分と同一であることから、製品及びサービスごとの営業収益の記載を省略しております。

（2）地域ごとの情報

①営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

②有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

（3）主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

第42期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（1）製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益各項目の区分と同一であることから、製品及びサービスごとの営業収益の記載を省略しております。

（2）地域ごとの情報

①営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

②有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

（3）主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

(関連当事者との取引)

1. 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

第41期（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

種類	会社等の 名称又は 氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の 内容又は 職業	議決権等の 所有(被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	(株)T&D ホール ディングス	東京都 中央区	207,111	持株 会社	(被所有) 直接 100	経営管理	連結納税に伴 う支払額及び 支払予定額 (*1)	32,605	未払金	8,424

(注) 1.取引条件及び取引条件の決定方針等

(*1)連結法人税額のうち当社の個別帰属額であり、連結納税親会社へ支払った額及び支払う額であります。

第42期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

該当事項はありません。

(2) 財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等

第41期（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

種類	会社等の 名称又は 氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の 内容又は 職業	議決権等の 所有(被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社の子会社	大同生命 保険(株)	大阪市 西区	110,000	生命 保険業	-	投資一任契 約の締結	投資一任 契約 (*1)	349,256	未収運用 受託報酬	93,225

(注) 1.上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2.取引条件及び取引条件の決定方針等

(*1) 投資一任契約にかかる報酬については、運用の種類・受託資産の規模等を勘案し総合的に決定しております。

第42期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

種類	会社等の 名称又は 氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の 内容又は 職業	議決権等の 所有(被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社の子会社	大同生命 保険(株)	大阪市 西区	110,000	生命 保険業	-	投資一任契 約の締結	投資一任 契約 (*1)	318,063	未収運用 受託報酬	111,263

(注) 1.上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2.取引条件及び取引条件の決定方針等

(*1) 投資一任契約にかかる報酬については、運用の種類・受託資産の規模等を勘案し総合的に決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

株式会社T & Dホールディングス（東京証券取引所に上場）

(1株当たり情報)

第41期 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)		第42期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	
1株当たり純資産額	7,105.13円	1株当たり純資産額	7,124.95円
1株当たり当期純利益	53.26円	1株当たり当期純利益	34.59円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	
1株当たり当期純利益の算定上の基礎		1株当たり当期純利益の算定上の基礎	
当期純利益（千円）	57,660	当期純利益（千円）	37,444
普通株主に帰属しない金額（千円）	—	普通株主に帰属しない金額（千円）	—
普通株式に係る当期純利益（千円）	57,660	普通株式に係る当期純利益（千円）	37,444
期中平均株式数（千株）	1,082	期中平均株式数（千株）	1,082

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

		第43期中間会計期間末 (2022年9月30日)	
区分	注記 番号	内訳 (千円)	金額 (千円)
(資産の部)			
I 流動資産			
1. 預金			4,721,560
2. 前払費用			95,327
3. 未収入金			48,776
4. 未収委託者報酬			712,568
5. 未収運用受託報酬			366,711
6. その他			17,512
流動資産計			5,962,458
II 固定資産			
1. 有形固定資産			69,053
(1) 建物	※ 1	62,816	
(2) 器具備品	※ 1	6,132	
(3) その他	※ 1	104	
2. 無形固定資産			74,196
(1) 電話加入権		2,862	
(2) ソフトウェア		64,404	
(3) ソフトウェア仮勘定		6,929	
3. 投資その他の資産			795,194
(1) 投資有価証券		446,425	
(2) 長期差入保証金		93,322	
(3) 繰延税金資産		239,569	
(4) 長期前払費用		15,876	
固定資産計			938,444
資産合計			6,900,903

		第43期中間会計期間末 (2022年9月30日)	
区分	注記 番号	内訳 (千円)	金額 (千円)
(負債の部)			
I 流動負債			
1. 預り金			241
2. 未払金			282,815
(1) 未払収益分配金		2,286	
(2) 未払償還金		2	
(3) 未払手数料		222,113	
(4) その他未払金		58,412	
3. 未払費用			428,541
4. 未払法人税等			11,572
5. 未払消費税等	※ 2		27,557
6. 賞与引当金			100,010
7. 役員賞与引当金			3,250
流動負債計			853,989
II 固定負債			
1. 退職給付引当金			469,928
2. 役員退職慰労引当金			22,196
固定負債計			492,125
負債合計			1,346,115
(純資産の部)			
I 株主資本			
1. 資本金			1,100,000
2. 資本剰余金			277,667
(1) 資本準備金		277,667	
3. 利益剰余金			4,321,225
(1) 利益準備金		175,000	
(2) その他利益剰余金			
別途積立金		3,137,790	
繰越利益剰余金		1,008,435	
株主資本計			5,698,893
II 評価・換算差額等			
1. その他有価証券評価差額金			△144,106
評価・換算差額等計			△144,106
純資産合計			5,554,787
負債・純資産合計			6,900,903

(2) 中間損益計算書

		第43期中間会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	
区分	注記 番号	内訳 (千円)	金額 (千円)
I 営業収益			
1. 委託者報酬			1,807,476
2. 運用受託報酬			690,415
3. 投資助言報酬			5,010
4. その他営業収益			12,894
営業収益計			2,515,796
II 営業費用			
1. 支払手数料			614,805
2. 広告宣伝費			168
3. 調査費			786,906
(1) 調査費		42,221	
(2) 委託調査費		533,071	
(3) 情報機器関連費		211,220	
(4) 図書費		392	
4. 委託計算費			97,077
5. 営業雑経費			48,727
(1) 通信費		4,047	
(2) 印刷費		39,256	
(3) 協会費		2,829	
(4) 諸会費		2,593	
営業費用計			1,547,685
III 一般管理費			
1. 給料			577,668
(1) 役員報酬		27,909	
(2) 給料・手当		536,161	
(3) 賞与		13,597	
2. 法定福利費			90,714
3. 退職金			1,349
4. 福利厚生費			3,250
5. 交際費			171
6. 寄付金			45
7. 旅費交通費			1,283
8. 事務委託費			57,765
9. 租税公課			41,527
10. 不動産賃借料			78,239
11. 退職給付費用			27,810
12. 役員退職慰労引当金繰入			2,098
13. 賞与引当金繰入			100,010
14. 役員賞与引当金繰入			3,250
15. 固定資産減価償却費	※ 1		14,399
16. 諸経費			21,777
一般管理費計			1,021,360
営業損失 (△)			△53,249

		第43期中間会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	
区分	注記 番号	内訳 (千円)	金額 (千円)
IV営業外収益			
1. 受取配当金			951
2. 受取利息			18
3. 為替差益			383
4. 受取補償金			11,644
5. 雑収入			151
営業外収益計			13,148
V 営業外費用			
1. 支払補償金			11,644
2. 雑損失			2,546
営業外費用計			14,191
経常損失（△）			△54,291
VI特別利益			
1. 投資有価証券売却益			63
特別利益計			63
VII特別損失			
1. 投資有価証券評価損			18,465
2. 投資有価証券売却損			86
特別損失計			18,551
税引前中間純損失（△）			△72,779
法人税、住民税及び事業税			△35,929
法人税等調整額			22,134
中間純損失（△）			△58,984

(3) 中間株主資本等変動計算書

第43期中間会計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

（単位：千円）

	株 主 資 本							
	資本金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金				株主資本 合計
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
					別途 積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	1,100,000	277,667	277,667	175,000	3,137,790	3,067,880	6,380,670	7,758,338
当中間会計期間 変動額								
剰余金の配当						△ 2,000,460	△ 2,000,460	△ 2,000,460
中間純損失 (△)						△ 58,984	△ 58,984	△ 58,984
株主資本以外 の項目の当中 間会計期間変 動額（純額）								
当中間会計期間 変動額合計	—	—	—	—	—	△ 2,059,444	△ 2,059,444	△ 2,059,444
当中間会計期間 末残高	1,100,000	277,667	277,667	175,000	3,137,790	1,008,435	4,321,225	5,698,893

	評価・換算差額等		純資産 合 計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	△ 45,578	△ 45,578	7,712,759
当中間会計期間 変動額			
剰余金の配当			△ 2,000,460
中間純損失（△）			△ 58,984
株主資本以外の項目の 当中間会計期間変動額 （純額）	△ 98,527	△ 98,527	△ 98,527
当中間会計期間 変動額合計	△ 98,527	△ 98,527	△ 2,157,971
当中間会計期間末 残高	△ 144,106	△ 144,106	5,554,787

重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

中間決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物	3～50年
器具備品	2～15年
その他	8年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(2) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えるため、当事業年度における支給見込額に基づき、当中間会計期間に見合う分を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、簡便法（期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法）により、当中間期間未要支給額を計上しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当中間期間未要支給額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

(1) 委託者報酬

委託者報酬は、投資信託約款に基づき、一定の期間にわたる運用により履行義務が充足されると判断しているため、投資信託の日々の純資産総額に信託報酬率を乗じた金額で収益を認識しております。

委託者報酬に含まれる成功報酬については、投資信託約款に基づき対象となる投資信託の特定のパフォーマンス目標を上回る超過運用益に対する一定割合として認識されます。当該報酬は成功報酬を受領する権利が確定した時点で収益として認識しております。

(2) 運用受託報酬

運用受託報酬は、投資一任契約に基づき、契約期間にわたる運用により履行義務が充足されると判断しているため、投資一任契約に基づき算出された計算基礎残高に投資顧問料率を乗じた金額で収益を認識しております。

運用受託報酬に含まれる成功報酬については、投資一任契約に基づき対象となる運用資産の特定のベンチマークまたはその他のパフォーマンス目標を上回る超過運用益に対する一定割合として認識されます。当該報酬は成功報酬を受領する権利が確定した時点で収益として認識しております。

(3) 投資助言報酬

投資助言報酬は、投資顧問契約に基づき、契約期間にわたり均一の助言サービスを提供するものであるため、期間の経過に応じて履行義務が充足されると判断しており、役務を提供する期間にわたり収益を認識しております。

5. その他中間財務諸表作成のための重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

会計方針の変更

時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当中間会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27－2項に定める経過措置に従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる中間財務諸表に与える影響はありません。

追加情報

当社は、当中間会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。）に従っております。

また、実務対応報告第42号第32項（1）に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

注記事項

(中間貸借対照表関係)

第43期中間会計期間末 (2022年9月30日)	
※ 1	有形固定資産の減価償却累計額は次の通りであります。
建物	73,765千円
器具備品	174,465千円
その他	792千円
※ 2	消費税等の取扱い
	仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ流動負債の「未払消費税等」として表示しております。

(中間損益計算書関係)

第43期中間会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	
※ 1	固定資産の減価償却実施額は次の通りであります。
有形固定資産	5,346千円
無形固定資産	9,052千円

(中間株主資本等変動計算書関係)

第43期中間会計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当期首株式数 (千株)	当中間会計期間増加 株式数(千株)	当中間会計期間減少 株式数(千株)	当中間会計期間末 株式数(千株)
普通株式	1,082	—	—	1,082

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

- 1) 配当金の総額 2,000,460千円
- 2) 配当の原資 利益剰余金
- 3) 1株当たり配当額 1,848.00円
- 4) 基準日 2022年3月31日
- 5) 効力発生日 2022年6月13日

- (2) 基準日が当中間会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間会計期間後となるもの
該当事項はありません。

（金融商品関係）

1. 金融商品の時価等に関する事項

2022年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、以下の通りです。

市場価格のない株式等は、次表に含めておりません（（注1）参照）。また、預金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未払金及び未払費用は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、注記を省略しております。

（単位：千円）

	中間貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 投資有価証券			
その他有価証券	416,225	416,225	—
資産計	416,225	416,225	—

（注1）市場価格のない株式等の中間貸借対照表計上額は次の通りであり、金融商品の時価情報の「その他有価証券」には含めておりません。これらについては、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）第5項に従い、2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項で開示している表中には含めておりません。

（単位：千円）

区分	中間貸借対照表計上額
非上場株式	30,200
合計	30,200

2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

2022年9月30日における時価で中間貸借対照表に計上している金融商品

（単位：千円）

	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
(1) 投資有価証券				
その他有価証券	—	416,225	—	416,225
資産計	—	416,225	—	416,225

(注)時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

市場における取引価格が存在しない投資信託については基準価額を時価とし、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

第43期中間会計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

1. その他有価証券

その他有価証券において、種類ごとの中間貸借対照表計上額、取得原価及びこれらの差額については、次の通りです。

(単位：千円)

	種類	中間貸借対照表 計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) その他	6,248	5,378	870
	小計	6,248	5,378	870
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) その他	409,976	618,552	△208,575
	小計	409,976	618,552	△208,575
合計		416,225	623,931	△207,705

2. 減損処理を行った有価証券

当中間会計期間において、有価証券について18,465千円（その他有価証券の投資信託）減損処理を行っております。

(収益認識関係)

1. 収益を分解した情報

当中間会計期間の収益の構成は次の通りです。

(単位：千円)

	第43期中間会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
1. 委託者報酬	1,807,476
2. 運用受託報酬	690,415
3. 投資助言報酬	5,010
4. その他営業収益	12,894
合計	2,515,796

2. 収益を理解するための基礎となる情報は「重要な会計方針 4. 収益及び費用の計上基準」に記載の通りです。

（セグメント情報等）

第43期中間会計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

1. 製品及びサービスごとの情報

当社の製品及びサービス区分の決定方法は、中間損益計算書の営業収益各項目の区分と同一であることから、製品及びサービスごとの営業収益の記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、中間損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先は次の通りです。

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	営業収益
大同生命保険株式会社	295,240

（1株当たり情報）

第43期中間会計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）	
1株当たり純資産額	5,131円44銭
1株当たり中間純損失	△54円48銭
（算定上の基礎）	
中間純損失（千円）	△58,984
普通株主に帰属しない金額（千円）	—
普通株式に係る中間純損失（千円）	△58,984
期中平均株式数（千株）	1,082

（注）潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、1株当たり中間純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次の行為が禁止されています。

1. 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
2. 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
3. 通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下4、5において同じ。）または子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。）と有価証券の売買その他の取引または店頭デリバティブ取引を行うこと。
4. 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
5. 上記3、4に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

①定款の変更等

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の特別決議が必要です。

②訴訟事件その他の重要事項

委託会社およびファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1) 受託会社

三菱UFJ信託銀行株式会社

- ・ 資本金の額 324,279百万円(2022年3月末日現在)
- ・ 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

[信託事務の一部委託先]

日本マスタートラスト信託銀行株式会社

- ・ 資本金の額 10,000百万円（2022年3月末日現在）
- ・ 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

名 称	資本金の額 (単位：百万円) (2022年3月末日現在)	事業の内容
池田泉州T T証券株式会社	1,250	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
とちぎんT T証券株式会社	1,001	
東海東京証券株式会社	6,000	
西日本シティT T証券株式会社*	3,000	
ワイエム証券株式会社	1,270	
株式会社S B I証券*	48,323	
ニュース証券株式会社	1,000	
ほくほくT T証券株式会社	1,250	
十六T T証券株式会社	3,000	
楽天証券株式会社*	19,495**	

* マネープール・コースの取扱いはありません。

** 2022年7月6日現在

2【関係業務の概要】

- ①「受託会社」は主に以下の業務を行います。
 - a. 信託財産の保管・管理・計算
 - b. 委託会社の指図に基づく信託財産の処分等
- ②「販売会社」は主に以下の業務を行います。
 - a. 受益権の募集・販売の取扱い
 - b. 受益権の換金（解約）申込の取扱い
 - c. 換金代金、収益分配金および償還金の支払の取扱い
 - d. 目論見書、運用報告書の交付等

3【資本関係】

（持株比率5.0%以上を記載します。）

2023年2月末日現在、該当事項はありません。

第3【その他】

1. 目論見書は別称として「投資信託説明書」と称して使用することがあります。
2. 目論見書の表紙にロゴ・マーク、図案を使用することがあります。
3. 目論見書の表紙等に、以下の事項を記載することがあります。
 - ・金融商品取引法上の目論見書である旨
 - ・目論見書の使用を開始する日
 - ・信託財産は受託会社において信託法に基づき分別管理されている旨
 - ・委託会社の金融商品取引業者登録番号
4. 詳細な情報の入手方法として、以下の事項を記載することがあります。
 - ・委託会社のホームページアドレス、電話番号および受付時間
 - ・請求目論見書の入手方法および信託約款が請求目論見書に掲載されている旨
 - ・請求目論見書は投資者の請求により販売会社から交付される旨および当該請求を行った場合にはその旨の記録をしておくべきである旨
5. 届出の効力に関する事項について、以下のいずれかの内容を記載することがあります。
 - ・届出をした日、届出が効力を生じている旨および効力発生日
 - ・届出をした日および当該届出の効力の発生の有無を確認する方法
6. 届出書本文「第一部 証券情報」、「第二部 ファンド情報」に記載の内容について、投資者の理解を助けるため、当該内容を説明した図表等を付加して目論見書の当該内容に関連する箇所に記載することがあります。
7. 請求目論見書の巻末に、ファンドの信託約款の全文を掲載することがあります。
8. 目論見書は電子媒体、インターネット等に掲載することがあります。

独立監査人の監査報告書

2022年6月3日

T & Dアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 羽柴 則央
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 伊藤 雅人
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているT & Dアセットマネジメント株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの第42期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、T & Dアセットマネジメント株式会社の2022年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. X B R Lデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2023年3月24日

T & Dアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員

公認会計士

羽柴 則央

業務執行社員

指定有限責任社員

公認会計士

福村 寛

業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）円ヘッジ・コースの2022年7月21日から2023年1月20日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）円ヘッジ・コースの2023年1月20日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、T & Dアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む。）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

T & Dアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2023年3月24日

T & Dアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員

公認会計士

羽柴 則央

業務執行社員

指定有限責任社員

公認会計士

福村 寛

業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）通貨プレミアム・コースの2022年7月21日から2023年1月20日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）通貨プレミアム・コースの2023年1月20日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、T & Dアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む。）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

T & Dアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2023年3月24日

T & Dアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員

公認会計士

羽柴 則央

業務執行社員

指定有限責任社員

公認会計士

福村 寛

業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている米国リート・プレミアムファンド（年2回決算型）マネープール・コースの2022年7月21日から2023年1月20日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、米国リート・プレミアムファンド（年2回決算型）マネープール・コースの2023年1月20日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、T & Dアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む。）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

T & Dアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. X B R Lデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2022年12月9日

T & Dアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	羽柴 則央
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	福村 寛

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているT & Dアセットマネジメント株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第43期事業年度の中間会計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、T & Dアセットマネジメント株式会社の2022年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは中間監査の対象には含まれていません。